

第 3 回 館山市議会定例会会議録

(第 2 号)



1 平成8年9月11日（水曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番 辻田 実	2 番 本橋 亮一
3 番 三上 英男	4 番 小幡 一宏
5 番 忍足 利彦	6 番 鈴木 順子
7 番 斉藤 実	8 番 増田 基彦
9 番 島田 保	10 番 宮沢 治海
11 番 秋山 光章	12 番 植木 馨
13 番 脇田 安保	14 番 永井 龍平
15 番 山崎 雅己	16 番 鈴木 忠夫
17 番 岩村 勝弘	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 神田 守隆
21 番 山中金治郎	22 番 榎本 春光
23 番 石井 昌治	24 番 福原 勤
25 番 飯田 義男	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 庄司 厚  
収入役 永野 修  
総務部長 鈴木 完二  
経済環境部長 小沼 晃  
水道課長 谷貝 実  
監査委員 山田 教和

助 役 小幡 清之  
企画部長 寺嶋 清  
市民福祉部長 渡辺 富雄  
建設部長 鈴木 信一  
教育委員会 会長 高橋 博夫  
教 育 委員 田村 哲也  
監事 事務局 局長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一  
書記 四ノ宮 朗

事務局長補佐 鈴木 哲  
書記 島本 一樹

書 記 鈴木 達也

書 記 松浮 郁夏

# 1 議事日程（第2号）

平成8年9月11日午前10時開議

## 日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時00分

◎議長（山中金治郎君） 本日の出席議員数25名、これより第3回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

### 行政一般通告質問

◎議長（山中金治郎君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の9月6日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

3番議員三上英男さん。御登壇願います。

（3番議員三上英男君登壇）

◎3番（三上英男君） おはようございます。6点ほど質問させていただきます。

まず、1、残土搬入について。その1、量的規制をする必要があるのではないか。県外からの建設残土につきましては、かねてからその安全性を市当局にただしてまいりましたが、問題はない、今後も市の埋立て条例で対応していくとのことでした。しかし、市条例は500平米を超える宅地造成等を対

象に制定したものであり、このような県外からの膨大な残土を対象とするには無理があるのではないのでしょうか。埋め立てに関しましては、最近千葉県内では成田の民間産廃処分場の医療機器の不法投棄、成東での残土からの有害物質検出、八街での埋め立てに絡む贈収賄事件と大きな社会問題となっております。館山市におきましても、このままの形で進んでいけば、取り返しのつかない事態になることが予想されるのであります。

館山市は、本年7月、出野尾地区に19万立米の埋め立てを許可しました。ここは、昭和58年、大雨による大規模な土砂災害を起こしたところであります。19万立米という土量がいかに危険な土量であるか、過去のいきさつから考えれば市当局もわかっていたと思うのであります。しかし、市は埋立て条例に適合するとのことで許可いたしました。一般的に許可されますと、そこには目いっぱい運び込むというような手法がとられておりますが、市は工事方法、土量、汚泥の混入など、それらの監視をどうやっていくか、お尋ねいたします。

しかし、このような問題を抱えながらも、既に幾つかの場所は埋め立てが終了しているのですが、その後の復元計画はどうなっていますか、災害防止の観点から後始末をしっかりとるよう指導していただきたいのですが、お答えいただきたいと思います。

その2、ごみ焼却灰の最終処分場の建設について。厚生省は、全国自治体にごみ焼却場からダイオキシンについて調査、公表するように通達したとのことですが、事実でしょうか。この猛毒であるところのダイオキシンがごみ焼却場からどのくらい出ているかは大変関心のあるところであります。ダイオキシンの濃度は、炉の構造、燃焼温度などによって違いがあるということですが、いずれにしても焼却灰に含まれて処分場に埋め立てられるわけでありまして。その意味から、処分場はより完全なものが要求されるのであります。

最近千倉町と天津小湊町で処分場建設を決めました――管理型ということでありまして。館山市も現在の処分場は限界に来てしていると聞いておりますが、どのような計画をお持ちでしょうか。また、下流住民の意見は十分聞いてお

りますでしょうか、お伺いいたします。

また、一方では灰の溶融によって建材あるいは道路の路盤材などに資源化する方法も一部で行われています。市の計画はいかがでしょうか。

ちなみに、けさの読売新聞には「焼却灰から砂」ということで出ておりました。全国で17工場が稼働しておるそうです。

次、3の容器リサイクル法について。来年度より容器リサイクル法が施行になりますが、これによって空き缶やペットボトルが資源化されることを期待するものであります。容器の中でも、ワンウエーのものはごみになりやすいわけですが、アルミ缶、ペットボトル、牛乳パックは良質の資源であります。これらをリサイクルのルートに乗せてごみにしないことは、前に言いました焼却灰の減少につながるものであります。法施行に当たって、市の準備状況をお伺いいたします。

次に、N T Tの株購入についてであります。その1、監査報告書について質問をいたします。報告書を読んでわかったことは、これは典型的な組織内犯罪であるということであります。山田元収入役 — 以下、山田収入役と言いますが、株の購入、それに伴う損害などは、内部告発がない限り絶対発覚しないと経験上わかっていたと思うのであります。含み損が出た時点で補てんを考えていたとありましたが、それは発覚後の言いわけにすぎません。なぜなら、山田収入役の手腕からすれば、2,000万ぐらいの含み損などは問題ではなかったと思うのであります。まして、含み損ゆえに、あえて取り上げる気にもならなかったと思うのであります。

そして、株は証券マンを介して後任の渡辺元収入役 — 以下渡辺収入役と申しますが — に引き継がれていったのです。ここで両収入役と証券マンのかかわり合いが重要な問題になってくるのです。これだけの商売をしたわけです。わいろ性の金銭の授受はなかったか、個人としての付き合いと公人としての付き合いのけじめはしっかりついていましたでしょうか。もしわいろをもらっていたとすれば、これは立派な犯罪であります。恩赦の対象にはなりません。渡辺収入役にも同様のことが言えると思います。

山田収入役は、退任後、社会福祉協議会事務局長に就任し、以後8年間在

職しました。自責の念にかられていたとしたら、これほど長くいられたでしょうか。一説によりますと、退職してしまうと発覚するので — のおそれがあるので、それをおそれて8年間いたという説もあるわけです。なるほど、退職したと同時にこれが明るみに出たということは、執行部はやはりこの日を待っていたのではないかと勘ぐられるわけです。

この事件は、犯罪性があるかないかが大きな問題であります、株購入に際して 110株、50株と大量に購入できたわけをお伺いいたします。温情論を支持する声も上がっておりますが、重大な事件でありますので、真実の究明を優先しなければならないと思います。

次の5番目、南房総広域水道について。来月より給水開始となるようですが、一応おめでとうございます。しかし、余りにも金がかかり過ぎます。8年度は1億7,900万、9年度は4億700万、10年度4億3,400万、11年度5億200万、これは利根川広域水道企業団から買う水の値段でございます。大体1日当たり5,000トンから7,000トンとなっております。確かに水は足りません。だから、利根川の水でも我慢しようと思った人は多かったと思います。これも足りない分だけ買うんだとすれば仕方がないということですが、これではあらかじめ利根川の水になってしまうわけです。まずい、高い、危険、この水を今後飲み続けなければならなくなったのです。水道行政の失政と言わざるを得ません。何らかの策を講じない限り、市民は納得しないと思います。今後の水道料金幾らぐらいになるか、既設の水道管との接合はどうしているのか、どこでどうまぜるのか、受水時の水質検査はどうするのか、既設の設備はどう管理していくのか、お伺いいたします。

次の6番目、工事契約について。文化ホールの駐車場と豊房小学校増改築工事が随意契約になりましたが、これは館山市にとって何が有利だったのでしょうか。安房博は県の工事ですので、直接関係はありませんが、読売新聞千葉支局の調べでは、談合の疑いがあったと報道されています。入札結果は館山の業者が落札をしております。入札金額が予定金額を2度も上回っているということは、談合の疑いが強いわけであります。自由競争の原則に反していると思うわけであります。なぜ市の予定金額と業者の入札金額に開きが

あったのですか、入札金額が上回っている理由をお伺いいたします。

以上、お答えによりましては再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの三上議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、残土搬入の量的規制についての御質問でございますが、埋立工事の進捗状況の定期的な報告とあわせまして、量的な報告も求めてまいりたいと考えております。有害物質の検査体制につきましては、許可条件といたしまして定期的な土壌及び水質検査を義務づけておりますが、さらに残土発生場所の報告並びに確認と土壌検査の実施を指導するなど、検査体制を強化したいと考えております。

また、埋め立て終了後の土地緑化対策につきましては、自然環境を復元させたいという意味で非常に大切なことと理解しております。したがって、自然環境保全の見地からも埋め立て完了後の緑化について指導してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、ごみ焼却灰の最終処分場の建設 — これについての御質問でございますが、館山市の一般廃棄物最終処分場は平成10年度末で埋め立て終了の予定でございます。平成11年度以降の最終処分場につきましては、現処分場のかさ上げによります対応を考えておりまして、現在関係住民の方々の御理解を得るべくお願いをしているところでございます。

また、焼却灰の溶融化につきましては、千葉県環境衛生促進協議会に一般廃棄物処理検討委員会が設けられておりまして、その中の広域処理専門委員会で検討しているところでございます。館山市といたしましても、同委員会の推移を見ながら検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、容器包装リサイクル法についての御質問でございますが、平成9年度からの分別収集計画で対象となりますのは7品目でございます。館山市におきましては、従来より缶、ガラス製容器、段ボール類につきましては再資源化に積極的に取り組んできております。また、紙パック、ペットボトルにつきましては、収集、保管、指定業者への引き渡し方法等の解



決すべき問題点もありますので、現在対応を検討中でございます。

大きな第4、N T T株購入につきましての御質問につきましては、代表監査委員より御答弁申し上げます。

大きな第5、南房総広域水道についての御質問でございますが、まず南房総広域水道企業団の給水料金についてでございますが、8月22日開催されました企業団議会におきまして、九十九里地域水道企業団並みの1立方メートル当たり 193円63銭に決定いたしました。

次に、出野尾配水場からの配水についてでございますが、市道 335号線から国道 410号線で館山方面、神戸方面に配管いたしまして、真倉及び藤原地先におきまして既設配水管と接続しております。

次に、水質検査についてでございますが、南房総広域水道企業団及び館山市水道で定期的な水質検査を実施するとともに、塩素滅菌につきましては受水時及び配水時に常時自動的に塩素濃度を観測できるシステムとなっております。

次に、受水後の既設浄水場の管理についてでございますが、作名浄水場を初めとする8つの浄水場につきましては、館山市全体の使用水量に応じ、主に作名浄水場で調整を図りながら利用していきたいと考えております。

次に、市水道料金の改定についてでございますが、市水道事業の健全な財政運営を図るため、水道料金を改定せざるを得ないものと考えております。

次に、大きな第6、工事契約についての御質問でございますが、設計に当たりましては国、県の基準等に基づいて積算しておりますので、設計金額は適正なものであると考えております。

次に、入札に関連する御質問でございますが、館山市の入札につきましては適正に行われているものと認識しております。

なお、工事契約につきましては、今後も競争入札を原則として行っております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 山田監査委員。

（監査委員山田教和君登壇）

◎監査委員（山田教和君） 大きな第4、N T T株購入にかかわる監査報告書についての御質問でございますが、まずリポートのようなものはなかったかとの御質問でございますが、事情聴取の中ではそのような事実はございませんでした。

次に、N T T株を大量に購入できた理由についてでございますが、従来から現先等の取引があった3社に分散することにより、購入することができたと聞いております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 3番議員三上さん。

◎3番（三上英男君） 残土の安全性なんですが、定期的な検査ということになりますけれども、大体どのくらいの回数となっておるのか。定期的といいますが、年4回ぐらいとか年2回とかということがありますので、大体その回数をお示しいただければありがたいと思います。

それから — 1つずつ、ではお願いいたします。考えがまとまりません。

◎議長（山中金治郎君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 検査の回数という御質問でございますけれども、まず許可申請時に発生場所の残土の土質調査等はお出しいただくということでございます。それから、事業期間中につきまして、土質調査につきましては年2回、それから水質検査につきましては4カ月に1回、なお事業完了後3年間は年1回実施をして報告をいただくということになっております。

なお、市といたしましても、必要に応じまして年1回程度の市独自の検査は実施すると、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 私以前そこからの浸出水を採取して検査をしてもらうようにということで環境保全課の方に申し入れましたところ、その検査については業者に任せるということで、保全課独自ではやらなかったといういきさつがあるんです。これは何遍やっても業者任せでは正確な数値は出てこ

ないと考えるものです。検査体制を強化するということは、やはり保全課が主導権を持って検査をするということをしないと、これは一方的なデータになってしまうんじゃないかと思いますが、その点お尋ねします。

◎議長（山中金治郎君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ただいまの御質問の件でございますが、本来そういう検査は事業者負担で行うというのが原則というふうに私ども考えております。前回のときには――要するに今御質問のようなそういう懸念を排除するために、事業者と、それから検査業者、それに市が現場で立ち会いまして、そこで採取したものを封印して検査業者に持ち帰っていただき、検査をしていただいた。十分信用すべき検査結果というふうに私どもは認識をいたしております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） いや、その点がちょっと感覚的にずれがあると思うんです。検査をするに当たって、される側が検査したものが果たして正確さというか、信憑性、それがあるんでしょうか。検査するからには、検査する方が検査すると、される方が検査したって正確に出るわけがないわけです。ですから、年4回やるとか、3回やるとか、2回やるとかじゃなく、そのうちの1回ぐらいは市が独自でやるというような形をとってもらいたいと思いますが、どうでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 事業者側で検査を行っても、例えば市が行ったにいたしましても、直接みずから検査する能力というのはないわけでございます。いずれも検査業者に検査をお願いすることになるわけでございます。この検査業者につきましては、ちょっとはっきりしたあれじゃないですが、たしかいわゆる登録をした業者ということで、当然その業者につきましてはそれだけの正確な検査をするという社会的責任はあるわけでございます。これは、今回のこういう残土に係る検査以外につきましても、そういう検査はそういう検査業者に依頼をしているというのが実情でございます。し

たがいて、どちらで依頼をいたしましても、その検査結果というものは信用すべき数字というふうに認識をいたしております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） くどいようですが、それは検査機関は確かに登録業者であって、検査結果をごまかすとか何とかということは、これはあり得ないと仮定します。しかし、最初にやった——今回4月にやったものは3者立ち会いのもとでやったということですので、最初にやった点は手心を加えたというようなことはないとは思いますが、あくまでだれが見てもこれは間違いないと言われるようにするには、最初の検査水を採取するときから検査まで、一貫して検査する側がすべきであると考えておりますが、これは何回やっても同じだと思いますので、今後はそうしていただきたいと思うわけでありま。

それから、次のごみ焼却灰の最終処分場のことでありますが、かさ上げで対応すると、こういうことでありますが、これは管理型でしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 現在の最終処分場も管理型でございます。したがいて、今後かさ上げで対応します部分につきましても、管理型ということでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） 私この間、実は大急ぎで見てきたわけですが、最近の管理型というのは、あれではちょっと手ぬるいと思います。といいますのは、さっき言いましたように、千倉とか天津小湊でつくる管理型は全部ゴムシートを敷くというやり方をとっております。今のあれですと、雨水は全部浸透して、水を浄化する部分に100%入るとは保障できないわけです。ですから、あのような形態でかさ上げしても、今言われている管理型というにはほど遠いと思いますが、いかがでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 現在の最終処分場について申し上げますと、ゴムシート等のものは敷いてございませんが、いわゆる重力浸透を防ぐということで一番最下部には粘土が張りつけてございます。これは、当時最終処分場を建設いたしました際は、その基準の中に入っているわけでございます。今回かさ上げによりまして、新たにかさ上げ部分での整備につきましては、今お話ありました、いわゆるシートを敷きまして、現在の基準で最高水準のものを使っていくと、こういうことでございます。

それから、いわゆる処理水の処理につきましては従前のものと、それから今後新たに増設する部分のものをあわせまして処理をしていくと、こういう考えでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） このゴムシートを敷いて、より完全なものにする——現在よりも完全なものにするということで進んでいるようですが、それに対して神余の人たちの意見はどうなっているのでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 神余の皆さんの御意見という御質問でございしますが、8月の末に各区にお伺いいたしまして、お集まりいただいて御説明を申し上げ、御協力をお願いしたところでございます。いろいろやはり各区によりましてお考えに温度差があることは事実でございます。

ただ、1回だけのまだお願いでございます。区民の皆さんの中には、最終処分場って何だというような、そういう方もおいでになりますので、ぜひ現場を見ていただきたいというようなことで、そういう過程を経ながら御理解をいただくように今後ともお願いをしていくと、こういう考えでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） じゃ、その線で進めるということで理解いたしました。

次の容器リサイクル法ですが、これも今館山は古紙に関しては確かに安房

郡内ではよくやっていると思います。しかし、今問題になっているペットボトル、これは扱いがすごく厄介というか、かさばる。こういうのがやはりいち早く安房郡の中では館山はよくやっているというような方向に持っていただきたいと考えるわけです。よそがやらないから、うちもやらないというようなことではなくて、こういうことに関しては館山は安房郡の中ではぬきんでているというような体制をとっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 市長の答弁にもございましたように、また今三上議員の御質問にありましたように、館山市といたしましては分別収集というのは結構積極的に取り組んできているという点は御理解いただけだと思います。

ただ、このペットボトルにつきましては、これは来年の4月から7品目の中に入っているわけでございますけれども、やはりいろいろ問題がございます。例えばの話で申し上げますと、ストックヤード、いわゆる収集したものをそういう関係の業者が引き取りに来る頻度といいますか、申し上げますと、分量は10トン車1台程度ということでございます。したがって——しかもペットボトルかさばりますので、空気を抜いて圧縮したもので10トン車1台程度ということになりますと、そういうストックヤードの問題ございます。

それと、収集をどうするかという部分もございます。現在のところ、館山市といたしましては実施する方向で検討をいたしておりますが、そういう今後解決していかなければならない課題があるというふうに考えております。

以上です。

◎3番（三上英男君） わかりました。なるべくこの法律が何のために施行されるかということを考え合わせて努力していただきたいと思います。

4番目のNTT株につきまして、先ほどの御答弁の中に容易に——現先取引があったので、容易に購入することができたというお答えでした。としますと、証券マンと元収入役とのおつき合いというのは相当長かったと思うの

です。ですから、ツーカーという立場であったのではないかと思います。それが、これだけの株が買えたということにつながっていると考えるわけですが、いろいろ性があったかどうかというのは、これは我々が調べることはできませんが、ごく一般に言ってこういう状態であったからこうなったということであれば、何らかの謝礼とか何とかというのはあったように思われるんですが、そういうところは全然予想もできないことなんでしょうか、お伺いいたします。

◎議長（山中金治郎君） 山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君） リベートの件につきましては、本人たち、それから証券会社の皆さん方から事情聴取いたしましたところでは、一切ないというお答えでございました。

そしてまた、株購入は山田及び渡辺元収入役からの購入希望によりまして証券会社が対応したものでございますので、違法な行為はなかったものと考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） 株購入については、皆さん手ぐすね引いておりますので、私はこれで終わります。

南房総広域水道につきまして、料金は未定ということだと思いますが、大体何倍ぐらいの料金になると思われますか、現行の。

◎議長（山中金治郎君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 市の水道料金のお尋ねでよろしいんですね。

◎3番（三上英男君） はい。

◎水道課長（谷貝 実君） 市の水道料金につきましては、この受水費あるいは拡張事業費等もありますので、原価が上がることは予測されておりますが、そのために水道料金の改定もお願いせざるを得ない状況でございます。

ただしながら、県の助成等をお願いいたしまして、利用者の方々の負担はなるべく抑えたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） 私が先ほどまずい、高い、危険というようなことを言いましたが、そもそも利根川の水が来ることによって、やはり助かったというような考えはたしかあったと思いますが、全部利根川の水に入れかえちゃおうなんていうようなことはだれも考えていなかったと思います。

それで、やってみたらこんなに高い水道料金——高いと言っていないですが、多分高くなると思います。高いし、今よりもまずくなるんじゃないかなというのはだれが考えたってそう思います。

それと、原水が利根川の水ですから、作名のダムとはまたちょっと違った物質が入っているんじゃないかという、この懸念もあるわけです。そういうわけで、水道料金を極力抑えてというのはどういった策を持ったらそれができるのでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 谷貝水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 現在県では県下の水道料金の格差是正のために、県の基準単価、県水の単価も過去3年使っているようでございますが、これを超えた分につきましては市の一般会計が補助すれば、その2分の1を補助するという制度、細かいものはあるんですが、大まかそういう制度があります。この制度を活用していきたいと考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） そうすると、そういう状態にあってもかなり高くなるということであると、足りない分だけ買えば用が済むんじゃないかという、こういった考えでいた人たちも、言ってみれば既設のダムの水などは補助的になってしまうと、大体が利根川の水を使わないと、それはただ捨てちゃうようなものだということで、利根川の水を使うのが優先するということになってしまうわけです。これは、足りない分だけを買うという、こういったシステムには変えられないのでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 谷貝水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） これ南房総の料金あるいは水量に絡む問題でこ



ざいますが、南房総広域水道の料金につきましては、17市町村の水道担当課長等で特別部会をつくりまして、長い間検討してきたわけですが、南房総広域水道と受水する事業体双方の財政の安定化、これを求めるとなかなか決められない問題でございまして、南房総の経費だけでも関係しますが、それだけではなく、水質の保全のためにも申し込み水量を原則としてとるという方向で進んでいるところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） まだまだ市民の間からは利根川の水を飲むようになって、また料金が上がったということで、問題になるような気がいたしますので、またそのときには十分な論議をしたいと思います。

次の工事契約についてであります。随契に至る理由というのは、館山市がそれをとることが有利であると認めた場合に、ここで認められておると、これはわかります。しかし、一応設計金額というのはそれほど大きくかけ離れるわけがないわけで、にもかかわらず、二度の入札が不調に終わったと。これは、新しい談合のやり方で、とにかく高いところへ価格設定をして、もうそれ以上譲らないというような、そういった業者間に話ができておるといような、そんなようなことは考えられませんか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 入札価格が予定価格を上回っておりまして、落札できなかったということにつきましては、入札に参加いたしました業者がより高い工事費の見積もりを行っているということでございます。今新しい談合のやり方ではないかというようなお話がございましたが、それが直ちに談合を意味するものではない、そのように考えております。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 安房博は県の工事ですから、直接は市と関係ありませんが、館山の業者が落札したということは、やはり業者間に何らかのそういった体質があると。そして、館山の場合は何か少しねぎり方激しいというような——そういったことはないんでしょうか。だから、業者は反発して高

いところに設定すると、何かその指数というものはあるんですか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいまのお話でございますが、先ほどの市長の答弁にもございましたように、国、県の基準に基づきまして、適正な価格で設計を組み、それで予定価格を設定しているものでございまして、他の市町村等に比較いたしまして、館山が特に市に有利に運ぶために低い価格を設定しているということはございません。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 今後またそういった事例が起きた場合、やはりそれに対してはただ単に入札が不調に終わったからというだけじゃなくて、いろんな情報を取り入れて適正な入札になるように予防するわけであります。

以上で質問を終わります。

◎市長（庄司 厚君） 今の三上議員の御質問の中 ― 伺いまして、利根川の水を持ってくる水質の問題ございましたけれども、現に九十九里あの沿岸の方々がその水をたくさん ― 何万人使ってしまして、持ってきます水は現在の水道法によってきちっとクリアしているいい水でございますので、館山市議会であの水がどうのこうのというのは、ちょっとこれはやっぱり九十九里の方々にすれば、おれたちが今毎日使っている水じゃないかということになりますので、ひとつ御了解賜りたいと思います。同じ水がこっちに来るわけでございます。よろしくひとつ御理解いただきたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 以上で3番議員三上英男さんの質問を終わります。

次に、2番議員本橋亮一さん。御登壇願います。

（2番議員本橋亮一君登壇）

◎2番（本橋亮一君） おはようございます。本橋でございます。私は、さきに通告いたしました4点について質問させていただきます。

まず、第1点目として、NTT株購入問題についてです。今多くの市民の皆さんが注目しておりますNTT株購入問題について、5月7日の全員協議会で市長より元収入役2人が公金で購入したNTT株により、約2億4,000万円の含み損を出していることが明るみに出ており、市長も公務員として許

せない行為であるとして監査を請求し、6月議会での市側の答弁でも株購入行為は地方自治法、市財政調整基金条例に違反しているし、また元収入役が監査委員に提出していた金融機関別預金残高総括表の中で、株取引を現先取引と記載していたことについては、刑法の虚偽公文書作成罪の可能性についても示唆いたしました。

そして、8月26日の市議会全員協議会で公表されました監査結果によりますと、損害額の総額として約4億円とし、その賠償責任は元収入役2人にあるとしながらも、昭和天皇の崩御による職員の懲戒免除及び損害賠償責任に基づく債務の免除に関する条例により、賠償責任は消滅しているというものです。つまり、懲戒と賠償責任について、昭和64年1月7日以前の事由によるものは、将来に向かって免除するということです。私は、全く予想もつかない監査結果にびっくりしたというか、このような結末になるとだれが予想したのでしょうか。監査結果は結果として尊重いたしますが、市民の皆さんには到底納得していただける内容ではありません。

私は、この監査報告と今後の市の対応について質問いたします。1番目、まず今回の監査結果に対して、市長は一市民としてどのようにお考えでしょうか。

2番目、9月3日、2人の元収入役より館山市に対して約6,500万円の任意弁済の申し出があった旨の報告がありましたが、これを誠意として受け入れることについては、個人的にこんな大金を捻出したり、資産を提供するのは大変なことだと思います。しかし、残りの1億7,000万円を上回る損失額の補てんについて、市の執行部としてはどうするおつもりか、お伺いいたします。

小さい3番目として、この事件をきっかけに市の職員の皆さんが肩身の狭い思いをしたり、士気が低下することを懸念いたします。今後このような事件が二度と起こらないようにするためには、体質改善をしなければならないと思いますが、そのようなお考えはございますか。

次に、大きい第2点目として、観光・リゾート拠点づくりの今後の見通しについてですが、現在館山市は東関道館山線の開通や東京湾横断道路の開通

に合わせて、海洋性リゾートタウンを推進するため、ウエルネスリゾートパーク計画やビーチ利用促進モデル事業等に取り組んでおりますが、南房総を広域的に考え、各市町村が相互に役割分担、連携を行いながら、その地域の持ち味や特性を生かした個性的で魅力ある地域づくりを展開することが南房総地区全体の発展につながると思います。そして、東関道館山線を中心として市内あらゆる地区を網羅した接続道路の建設はもちろんのこと、館山線沿いに館山市の玄関としての拠点づくりが不可欠だと思います。

例えばことし県の道路計画課や建設省国道工事事務所のほか、市町村の担当者がメンバーとなり、道の駅の設置を進める協議会が設立され、検討課題としては道の駅を軸にした地域活性化への支援や観光リゾートの振興、また車社会への対応が柱となっています。地域の文化の保存振興、また観光リゾートの支援としては、道路情報、観光やイベント情報の発信の拠点としての活用を考える、そして車社会への対応としては休憩所の機能のほか、地域住民に対しても利便性のある施設づくりを検討するもので、県内80市町村のうち49市町村が参加を表明しているそうです。

皆さんも御承知のように、富浦町にある道の駅は93年にオープンしておりますが、先日お聞きしたところによると、年間約40万人の利用客があるそうです。三芳村には既に道の駅があり、鋸南町、富山町と次々と表明しており、この点館山市はかなりおくれをとっています。特に富山町が計画しております道の駅事業としてのパーキングエリア構想プラス県で今年度よりスタートした、ちば新時代5か年計画に計画されている高規格道路周辺部の観光案内所や観光物産センター等の広域観光サービス拠点の整備を盛り込んだもので、パーキングエリアと観光物産センターをドッキングしようとするものです。近隣市町村でこのような動きが活発化している中で、このままでは通過地点になってしまうばかりか、地場産品や商業、観光、サービス業などあらゆる分野で危機的状況に追い込まれてしまうと思います。

そこで、質問いたします。1番目として、道の駅協議会に館山市が参加しておりますか、また道の駅を計画するつもりはありますか。

2番目として、館山自動車道沿いに館山市として観光物産センターのよう

なものを計画しておりますか。

第3点目として、情報公開条例とファイリングシステムについてですが、6月議会でも通告質問がございましたが、情報公開について取り組んでいる市町村はかなりあると思います。私たちは、日々暮らしの中で市が行っている仕事について詳しく知りたいと思うことが多くあります。市が持っている情報は、市民の皆さんとの共有の財産であります。私も日々市民の皆さんよりさまざまな要請を受けることがあり、その都度担当課より資料及び情報を提供していただいておりますが、もし市民が直接これを求めることができれば、信頼関係も深まり、住民本位の開かれた市政を実現できると思います。知りたいと思う公文書を求めに応じて公開する情報公開制度の導入について、市長は6月議会で平成9年度中に条例を制定すると言っておりましたが、どのような手順で進めていかれるつもりか、お伺いいたします。

次に、情報公開に関連したファイリングシステム導入についてですが、市役所の各課を見て驚くのは、職員の机の上の書類の山です。庁舎が手狭で仕方がない部分もございましょうが、執務環境としてよい状態とは言えません。昨年視察で北海道千歳市のファイリングシステムについていろいろお聞きしてまいりました。導入のきっかけは、情報公開制度の構築に伴い、文書管理の徹底と文書を私物化せず、保存から廃棄まで行うというものです。その結果は、40%の文書が不要となり、何と25トンの文書が消滅できたそうです。なるほど、庁舎内を見ても書類はきちんと整理整頓されていて、気持ちよいほどでした。このシステム導入に当たったの必要経費は2,700万円で、維持管理に必要な経費は平成7年度で354万4,000円でした。導入後の効果としては、ファイル基準表に基づく文書整理及び保存年限別の文書保存や、保存年限の見直しを行ったことにより、文書量が大幅に削減され、執務環境はもとより、文書事務の効率化が図られ、一段と文書の検索も容易になったそうです。

今回のNTT株購入の問題でも、発覚してより2カ月以上たってから昭和天皇崩御による免責条例が見つかりましたが、これも文書、情報の管理がずさんだったと言わざるを得ません。このようなシステムを取り入れ、情報公

開制度を確立することにより、今回のような事件も未然に防ぐことができると思います。そして、職員の皆さんが気持ちよく働ける環境がつくれ、さらに情報公開をするための準備も整うことと思います。

私は、ただいま申し上げたファイリングシステムをぜひお勧めしたいと思いますが、館山市としても情報公開に向けての何らかのお考えがあると思われるので、検討事項をお聞かせください。

大きい第4点目として、河川の清掃についてですが、市内には何本かの2級河川がありますが、特に汐入川の状況は木片、空き瓶、空き缶等、あらゆるものが投棄され、ごみ捨て場と化しています。そんな中で、汐入川を挟んで私の地元長須賀地区と館山地区の境にあります汐留橋のすぐ隣に年内完成を目指して側道橋をかける工事が進んでいます。これは歩行者専用で、中間にポケットパークを設け、ゆったりと川を眺めながらくつろげる憩いの場として期待されています。

このようにイメージのよい橋ができる反面、川に目を向けますと、ごみとごみの間をコイが泳いでいるさまはアンバランスでなりません。最近自然環境に対しての認識は徐々に高まってきてはおりますが、相変わらず不法投棄するような不心得者がいることも事実です。

市長が教員をされていた時代、特に長く在籍しておられた館山二中付近より上流は特にひどい状況で、これらのごみが北条海岸、新井海岸の汚染につながっているのではないかと思います。河川や海域の水質については、公共下水道事業、排水路浄化施設の整備や小型合併浄化槽の普及等によって、ゆっくりではありますが、いずれ改善されると思います。しかし、きれいな水が上辺を流れていても、川底がごみと汚泥の山では、市長が館山市基本計画で打ち出している活力ある文化福祉都市や海洋性リゾートタウンのまちづくりもままならないと思います。

そこで、質問いたします。1番目として、市長は現在の汐入川の状況についてどのようにお考えになっておりますか、お伺いいたします。

2番目として、海岸についてはビーチマシン等機器を導入してクリーン作戦を行っておりますが、河川の清掃について具体的な策は何かありますか、

お伺いいたします。

3番目として、行政のみが後始末をするのではなく、自分たちの環境は自分たちで守っていくという住民ぐるみの河川浄化運動を進めていくことが必要だと思います。市民に対してのPRや啓蒙活動として具体的に何かお考えはありますか。

以上、4点について質問いたしました。お答えにより再質問させていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの本橋議員の質問にお答えいたします。

まず第1、NTT株購入問題についての第1点目、監査結果についての御質問でございますが、監査結果ではNTT株を購入しました2人の元収入役には損害賠償責任があると認めた上で、昭和天皇の崩御に伴う職員の懲戒免除及び職員の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例の規定によりまして、既に賠償責任が消滅しているとの報告になっております。その内容につきまして詳細に検討いたしました結果、確認された事実を了解するとともに、損害賠償責任の消滅についてやむを得ないものと判断せざるを得ないとの結論に達しました。このような結果となりましたことを市民の皆様へ御報告せざるを得ない。大変恐縮に、遺憾に思っているところでございます。

私が監査請求をいたしました目的は、1つは事実をすべてありのままに包み隠さず市民の前に明らかにすること、2つ目は館山市民の損害を回復すること、この2点を目指しまして、誠心誠意努力してきたところでございます。4カ月にわたる監査によりまして、事実は明らかになりました。しかしながら、市民の損害回復への道がこのような結果になりましたことをまことに残念に思い、痛恨のきわみでございます。この点、市民の皆様と私は同じであると考えます。

次に、同じ株の問題の2点目、損失額の補てんについての御質問でございますが、歳計現金及び財政調整基金で生じた損失につきましては、平成8年度決算で欠損処分を行うこととなりますが、この事実を厳しく受けとめまし

て、今後より一層効率的な行財政運営に努めてまいります。

同じく、第3点目、今後の市の体質改善についての御質問でございますが、今回の問題の根底にありますのは公務員としての倫理観の欠如、ここに原因がある。この事件を契機にいたしまして、改めて全職員の自覚を促すとともに、公務員倫理の向上に努めまして、市民の皆さんの信頼回復を図ってまいり所存でございます。

次に、大きな第2、観光・リゾート拠点づくりの今後の見通しについての御質問でございますが、道の駅協議会への加入につきましては、千葉県道の駅協議会に設立当時より入会しております。

また、観光物産センターの計画につきましては、第3期館山市基本計画におきまして、観光物産センターの建設について検討を進めると位置づけておりまして、重要な課題であると認識しております。

次に、大きな第3、情報公開条例とファイリングシステムについての第1点目、情報公開についての御質問でございますが、情報公開制度は市民の市政に対する理解と信頼を深め、市政への市民参加を促進し、公正で開かれた市政の実現に寄与することを目的としております。現在原則公開を基本姿勢とし、内部で市の方針を検討しておりますが、今後市民の皆さんの御意見を伺いながら、平成9年度中に条例を制定したいと考えております。

同じ問題の2点目、制度導入に伴いますファイリングシステムについての御質問でございますが、御説のような先進地の事例を参考にしながら、情報公開に対応できるシステムの検討を進めてまいります。

大きな第4、河川の清掃についての御質問の第1点目、河川の現状についての御質問でございますが、これにつきましては住みよい環境は行政はもちろんのこと、そこに住む住民の大きな課題でございますし、環境と人間との共存を図っていく時代でございます。あの汐入川にごみ等が堆積することは極めて遺憾でございますし、適時住民の協力をもらいながら、また行政としても清掃を実施しているところでございます。

第2点目の清掃の方法についての御質問でございますが、ごみ等の種類によりまして、手作業あるいはブルドーザー等の機械により実施している現状



でございます。

第3点目の河川の浄化運動の推進についての御質問でございますが、清潔で美しいまちづくりを基本理念とするクリーン・アンド・ビューティフル運動の一環といたしまして、館山市とコミュニティ連絡協議会、その他たくさんの方の組織の御協賛をいただきまして、ニシキゴイの放流を毎年行っており、また河川浄化の意識の高揚を図っているところでございます。今後も引き続きまして、広報紙等を活用しながらこの運動を推進してまいります。住民の皆さんの御協力をお願いするところでございます。ともに手を携えまして、この問題頑張っていきたいと思っているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 2番本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） それでは、再質問させていただきます。

まず、NTT問題についてです。監査報告によりますと、昭和天皇の崩御に伴う市の債務免除条例によって損害賠償責任は消滅しているということで、これは職員の賠償責任に基づく債務で、昭和64年1月7日前における事由によるものは、将来に向かって免除するというものです。しかし、この時点では株の購入が行われただけで、事実関係として賠償責任に基づく債務は発生していません。つまり、これは事件が発覚し、株を処分した時点で初めて損害賠償に基づく債務が発生すると思いますが、その部分の解釈についてはいかがお考えでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 株を買ったことによります債務の発生の時点についての御質問でございますが、昭和61年2月27日に出了ました最高裁の判決でございますように、債務は地方自治法 243条の2第1項所定の要件、これは収入役がまずしたこと、それから現金の亡失であること、故意または過失があること、それから亡失と損害の発生に因果関係があること、これが要件でございますが、これを満たす事実があれば直ちに発生するというふうにされております。したがって、株を購入したことが現金の亡失に当たるということで債務が発生するわけでございます。

売却時点におきましては、回復されました損害額、これは株の売却益でございますが、それが決まりまして、回復分を控除いたしました損害額が確定するということになるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） 亡失したことによって、亡失——現金の亡失はNTT株購入のために公金を支出したということですが、それは公金を支出しただけであって、債務の発生とは関係ないと思いますけれども、その辺をもう一度ちょっとお願いしたいんですけれども。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） まず、現金の亡失の考え方でございますけれども、地方自治法 243条の2第1項に定めております現金の亡失につきましては、保管されている現金が保管または支配されている状態を離れるということでございます。株を購入したことによりまして、その現金に対する支配を失うということでございます。これは、一般的に考えますと、株を売却すればその現金はもとに戻るではないかというようなお考えになろうかと思いますが、その株の性格上、買ったその日あるいは翌日とか、そういうときに10万円下がったり20万円下がったりというようなことが当然のことに——当然また何万円も上昇するということも考えられるわけでございますけれども、そのようにいつでもその額が大幅に変動し、減少すると、可能性があるということは、これは現金を支配している状況には当たらない。したがって、株の購入が現金の亡失ということでございます。

したがって、現金の亡失に当たるということになりますと、先ほどお話をいたしましたとおり、最高裁判決にもございますように、一定の要件を満たした場合、債務が発生すると。もう株を買って、それで公金を支払った時点でその債務が発生するという考え方でございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） 私は法律家ではありませんので、余り詳しくその件

は — この辺で先へ進ませていただきたいと思います、6月議会で執行部がN T T株購入行為は違法であると言い切っておりますけれども、監査報告では犯罪に当たるとまでは言えないと相反しているわけですが、その食い違いについてはどのようにお考えでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 株の購入が違法な — 株の購入による現金の支出が違法な支出であるけれども、犯罪には当たらないということでございますけれども、犯罪とは制裁として刑を科せられるべき違法行為という定義になっております。違法であっても刑が科せられないものについては、犯罪ではないということになります。安全かつ有利な保管を定めました地方自治法と市の財政基金条例は刑罰を設けておりません。したがいまして、株の購入は現金の保管方法としては違法ではありますが、犯罪ではないということでございます。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） 例えば告発した場合には、それは罪になるということですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 告発した場合は罪になるかとの御質問でございますけれども、株の購入そのものが犯罪ではないということでございますので、この点について告発ということは考えられないわけでございます。

しかしながら、違法な行為を行って市に損害を与えたということがございますれば、免除条例の適用がない場合のことでございますが、当然その違法行為に伴います損害賠償命令というものがなされるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） じゃ、先に進みます。

法の解釈によりますと、本人の犯罪行為による賠償の責任に基づく本人の債務については減免できないことになっております。N T T株の購入行為は、監査結果によりますと犯罪に当たるとまではいかないとしておりますが、こ

の行為を隠し続けるために株取引を転換社債または現先取引と記載してきたこと、またさらに各年度の決算報告の残高も虚偽の報告であり、刑法の虚偽の公文書作成罪に当たるのではないですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 虚偽の報告書が刑法に規定いたします虚偽公文書作成罪に当たるのではないかと御質問でございますけれども、月例出納検査の説明資料でございます金融機関別預金残高総括表の虚偽報告につきましては、虚偽公文書作成罪に当たる可能性があるのではないかというふうに考えているところでございます。

しかしながら、虚偽の報告自体は免除条例第3条の事由そのものではございません。ここで言います事由は、株購入に公金を支出したことでございますので、それをもって免除条例第3条の債務の消滅には当たらないというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） 確かに虚偽の報告は免除条例第3条の事由そのものではないので、賠償責任による債務は免除されているということですが、それはそれとして今申し上げた虚偽の公文書作成罪については違法行為であると思いますけれども、これについてはどう処理されるつもりでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 地方自治法 243条の2第1項の規定に基づきまして、市から監査委員に監査請求をお願いいたしまして、先般監査報告をいただいたわけでございますが、免除条例、その中で先ほど市長も答弁しておりますように賠償責任あり — ただ、しかしながらその免除条例の規定によりまして、債務が消滅しているということでございますので、その規定に従わざるを得ないというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 今本橋議員の御質問は、損害賠償とは別に虚偽公文

書作成についての対応はどうするのかという御質問だと思いますが、それは虚偽公文書作成罪についての適用が可能かどうかということで、その対応を考えているところでございます。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） それでは、また先へ進みます。

監査報告の中の関係人調査、つまり事情聴取について6月7日、水戸証券館山支店長、野村證券千葉支店次長、東洋証券館山支店長、合計3人により個々に事情を聴取したとありますが、なぜNTT株の購入に携わった当時の社員の聴取を行わなかったのか、この点についてお伺いしたいんです。

◎議長（山中金治郎君） 山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君） 各証券会社には、本件につきまして当時の状況について十分説明のできる者の派遣を依頼いたしました。各社も事前準備を十分に行い、事情聴取に応じていただきました。しかし、死亡、転勤等の事情により、当時の担当者でない者もありましたが、事情聴取の目的は十分達せられたものと判断しております。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） 現実的に当時の社員でなければ、事実関係はほとんど究明されないのではないかと私は思っております。

次へ進みます。2人の元収入役のNTT株の購入についてですが、昭和62年11月7日、野村證券より10株、2,550万、昭和62年11月9日、水戸証券60株、1億5,300万円、同じく62年11月10日に東洋証券40株、1億2,000万円、そして昭和63年10月20日に東洋証券より50株、9,500万円となっておりますけれども、特に山田元収入役の購入の方法ですけれども、なぜ3回に分けてこれを購入したか、しかも3社より株をなぜ購入したかという——これ非常に不自然に思うんですけれども、この辺についてはいかがでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） その点についてでございますけれども、購入株数が多いために1社では対応できなかった、そのように聞いております。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君）　　という、地元には水戸証券、東洋証券と2社あるわけなんですけれども、なぜあえて10株、野村證券の千葉支店、これ何か特別理由があるんでしょうか。

◎議長（山中金治郎君）　山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君）　以前より現先取引等で野村證券との取引が非常に多かったという関係で、最初に野村證券にお願いしたところ、まず10株ということのお返事いただいて、それでは足りないということで地元をお願いしたと聞いております。

◎議長（山中金治郎君）　本橋さん。

◎2番（本橋亮一君）　私は余り株やったことはありませんけれども、普通もし私が株を買うとすれば、当然多い株数から買っていくと思うんですけれども、その辺はちょっと明らかになりませんので、先に行かせていただきます。

今回の株問題については、証券会社と山田元収入役との間で個人的な株取引があった証券会社に個人的に勧誘されたのが発端であったそうですが、この当時世間を騒がせ、竹下内閣崩壊の一因となったリクルート問題が発覚し、これに絡んだN T Tの会長が逮捕されるなど、N T T株が下落するのではないかという予測があり、各証券会社とかなり深いつき合いがあったにもかかわらず、処分もせず、さらに押目買いをしてしまう事実について、証券会社よりどのような働きかけがあったのか非常に疑問に思っておるんですけれども、その辺についてはいかがでしょうか。

（「休憩」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君）　暫時休憩いたします。

午前11時27分　休憩

午前11時29分　再開

◎議長（山中金治郎君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君）　先ほど三上議員にお答えいたしましたとおりでございまして、株の購入は山田及び渡辺元収入役からの購入希望に対しまして証券会社が対応したものでございます。そういうわけで、この取引には違

法な行為はなかったものと判断しております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） 私が聞いているのはそういうことじゃないんです。要するに、それだけの個人的にもつき合いがあった証券会社でありますので、普通こういう株が暴落とはいかないまでも下がるんじゃないかということは証券会社の方で予想できるわけで、それが両収入役に何もその情報が入らなかったのか、そういう働きかけ——売った方がいいですよとか、そのまま持っていないさいとか、そういう働きかけがなかったかどうかということをお聞きしているんです。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君） 働きかけはなかったと聞いております。しかも、株は上がるだろうということで買っております。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） それでは、次行きます。

刑法47条の背任罪の適用についてですけれども、市の見解は自分の利益や第三者の利益、または市に損害を与える目的を持つというのが要件であります。今回の事件は館山市のためにしたことで、自分の利益や第三者の利益、市への損害を目的にしていないという点で、これには当たらないとしています。株の購入が館山市のためにしたと断定しているわけですから、何を根拠にそのような判断をしたのか、お聞きします。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 監査をお願いいたしまして、その結果御提出いただきました監査報告の内容といたしまして、市のためにしたということでございます。その監査委員の判断を尊重いたしまして、市のためにしたということと判断した次第でございます。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） ということは、本人が事情聴取の中で言ったことが

そのままこのように断定されるということになりますけれども、ちょっとおかしいんじゃないかなと思うんですけれども — 山田元収入役はN T T株購入が違法であって、しかも投機性があり、損害が発生する可能性について十分熟知、認識していたということで、その観点2点から言いますと、これは背任罪に当たるのではないかと思いますけれども。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） まず、第1点目、単純にといいますか、元収入役2人の供述をもとにして、そのままのみにして — 市のためということで考えたかという御質問でございますけれども、市が株を購入し、公金を支出するシステム上、市の収入役の指定金融機関でございます千葉銀行の支店の収入役口座から証券会社の方の口座に現金が振り込まれるわけでございます。そのシステム、それからその株を購入した結果としての預かり書が市の方に — 収入役にということでございますが、送られている。このシステムの中で、これは市のために市の名義で株を購入したという、それ以外のことは考えられないわけでございます。したがって、本人の供述及び株購入の公金の支出の形態から考えまして、市のために買ったというふうに理解しているものでございます。

第2点目でございますけれども、確かに刑法の背任罪におきましては、市に損害を与える目的で行った行為につきましては背任罪の適用があるというふうにされているところではございますが、あくまでも損害を与える目的を持って株を購入したわけではございません。市の利益を図るということで、それを考えて購入したものでございます。当然株が下がるということはあるかもしれないということはございますけれども、株が下がることによって市に損害を与えようというふうに、それを目的として購入したものとは考えられませんので、背任罪の適用はないものと考えております。

◎議長（山中金治郎君） 本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） ですから、そういう断定で言い切っているということですが、これを判断できるのは監査委員でもないし、市の執行部でもないし、議会でもないと思っております。ですから、唯一公の場である司



法の手にゆだねるのが一番正解ではないかなと私自身は今思っております。

今いろいろと質問をしてきたわけですがけれども、私の質問に対する市の執行部のお答えを聞いていると、確かに法律にのっとった答弁ではありますけれども、すべて2人の元収入役を救済する側に立っての答弁に聞こえて仕方がないんです。当初は市長がおっしゃっていた、2人に対して厳しく追及するんだという姿勢はどこにも見当たりませんし、市民の皆さんになれ合いの体質があると思われても、これは仕方がないと思います。我々議会もそのような目で見られることについては、非常に心外であります。

先ほども市長がおっしゃっていたように、公務員には公務員の倫理観があると思います。この辺をもう一度見直して、行政が今まで積み重ねてきた悪政を払拭して、反省すべき点は反省し、今後市民にとってわかりやすい行政を実現するために最大の努力を図っていただきたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） 今本橋議員の最後にお話になりましたこと、これをこの論争について私どもが一番懸念をして心配していたところでございます。この論争をやってきますと、どうしてもそういうふうにとられざるを得ない。といいますのは、今までお2人の議員から質問がありましたけれども、それらのことにつきましてはそういう立場で法的にどうなんだということをやってきたわけなんです。その法律的な検討をしてきて——法律解釈の検討をしてきた結果、これはしょうがないんだなという法律の解釈の問題できたものですから、当然その法律のやりとりになると、2人を何か弁護するような形になっちゃうということで、その点を非常に心配していたんですが、ひとつ御理解いただきたいと思います。

（「暫時休憩」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 暫時休憩します。

午前11時38分 休憩

午前11時45分 再開

◎議長（山中金治郎君） 休憩前に引き続いて会議を開きます。

本橋さん。

◎2番（本橋亮一君） N T Tの問題については、これで終わらせていただきますけれども、鈴木総務部長に一言ちょっと申し上げますけれども、背任罪の適用について、総務部長が今自分の利益や第三者の利益、市への損害を目的にしていないということが要件であると言いましたけれども、これはもう一度ちょっと確認してもらいたいんですけれども、十分熟知、認識していたということで要件にもしかしたら当てはまるかもしれないということですから、もう一度確認をお願いします。

それでは、もう時間もございませんので、観光物産センターの件は市長さん、前向きに取り組んでいただきたいと思いますし、3点目の情報公開とファイリングシステムについては、行革の一環としてもぜひ早急に取り組んでいただき、9年度条例制定を実現していただきたいと思います。

4点目の河川の清掃についても早急に取り組んでいただいて、昔のきれいな川や海を取り戻すために努力していただきたいと思います。

以上をもちまして私の質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

◎議長（山中金治郎君） 以上で2番議員本橋亮一さんの質問を終わります。

次に、6番議員鈴木順子さん。御登壇願います。

（6番議員鈴木順子君登壇）

◎6番（鈴木順子君） 午前中最後の質問者となりますが、しばらくお時間をいただきたいと思います。

まず、質問をする前に一言申し添えておきますが、私の質問に関しまして、これでN T T株3人目でございます。重複する問題がありますが、視点も違う部分もありますので、あえて質問いたしますので、その辺をお含みおきいただきたいと思います。

それでは、通告をいたしました3点について御質問を申し上げます。第1点目の質問ですが、N T T株購入問題について監査報告がされましたので、それを受けましての質問をいたします。この問題は、5月の公表以来、市民を初め多くの方が……

◎議長（山中金治郎君） 暫時休憩をいたします。

午前11時47分 休憩

午前11時50分 再開

◎議長（山中金治郎君） それでは、休憩前に引き続き質問を続行いたします。

◎6番（鈴木順子君） この問題は、5月の公表以来、市民を初め多くの方々が監査結果がどうなるんだろう、またそれを受けて欠損額をどう補っていくんだろうと注目をしているところでありますが、8月26日に発表されました監査報告では、元収入役2人は賠償をする責任はあるが、免除条例によって損害賠償責任は消滅をしているという結果報告でありました。これを受けて、庄司市長初め市執行部がやむを得ないとの結論を出したことで、かつて私が経験をしたことのないほどの市民からの多くの声が寄せられました。このまま納得しろと言われても、とても納得できるものではない、こんなことで許されていいのか等々の声でありました。この問題に関して、私の耳で聞いた限りでは、もう仕方がないんじゃないかという意見は1度も聞いていないことを申し添えておきたいと思います。

私は、今回のこの株購入問題は、市民にとってはとても不幸な出来事ではありますが、二度と同じような過ちを犯さないためにも、私たち市議員としても行政のチェックが行われていなかったことをみずから反省をし、株購入がどういう状況の中で見過ごされてきたのかも含めて、この際ただすものはただしていかなければならないと考えております。

そこで庄司市長、多くの市民が納得をしていない状況をどう考え、具体的にどうしていこうとしているのか、伺いたいと思います。監査報告の中では、山田元収入役は好ましいことではないと知りつつ行ったと述べております。悪いことだと承知をしつつ行っったということでもあります。

市長、あなたは長いこと教育現場で働いてこられました。子供たちに悪いことをしないように、悪いことをすればどうなるか教育をされてこられませんでしたか。まさに、市民が怒っている1つの理由はこの中に――このことがあるわけです。悪いことをしても許される、このことがここでまかり通らうとしているわけです。この筋の通らないことに怒りを覚えているわけです。

監査報告では、免除条例を理由に挙げておられますが、この解釈についてもさまざまな意見があるわけです。

さて、監査報告の中から幾つかの問題点があると思われますが、疑問点を幾つか伺ってまいりたいと思います。まず、N T T株購入をした山田元収入役のいつでも売れる状態にしておきたかったとの証言があります。私は、株については全く知りませんが、お聞きをするところでは株を買うためには名義人が必要と思いますが、問題のN T T株はそれぞれの証券会社、野村証券千葉支店、水戸証券、東洋証券それぞれ館山支店であります。株名義はどうなっていたのでありましょうか。市のためにと考えてやったと山田元収入役は述べておりますが、内緒で行ったことが大きな疑問を持つことにつながっております。公金を使って買った株が損をした現実に対して、もし株価が上がって得をしていたら、それはどうされていたのだろうかという点であります。虚偽の記載をしていて、8年間もわからなかったとされているわけですから、もし得をしていたら私的処理、つまり自分の利益にという考えがあったのではないかと。うその報告でだまされてきたのだから、それができたのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

次に、株を購入した元収入役と証券会社の関係であります。山田元収入役、渡辺元収入役ともに現先、転換社債などにより取引を行っていた関係上、各証券会社とのかかわりがあったこと、また山田元収入役は個人的にも取引があったことが株購入の発端であったということでもあります。山田元収入役が取引をした野村証券は千葉支店であり、購入可能な10株を、水戸証券館山支店からは60株を、東洋証券館山支店からは40株をと、購入株数にばらつきがあります。

また一方、渡辺収入役は東洋証券から50株を購入しているとされております。

そこでお伺いをするわけですが、山田、渡辺元収入役ともにでございますが、各証券会社との間で金品の授受行為あるいは接待などの行為がなかったかどうか、その点についての調査をされたのか——詳しい調査をされたのか、お伺いをいたします。

次に、免除条例について伺います。条例の内容については述べておられますので、ここでは述べませんが、ここでは――私どもは条例集を常にお借りをして手元に持っております。監査報告を受けた日に、私は条例集を目をさらのようにして見ても条例集には載っていないという現実がございました。問い合わせたところ、条例集には載せていないとの答弁でありました。なぜ市の条例集に今問題となっている免責条例を載せていないのか。考えられることとすれば、その場限りの時限立法的な考え方ではなかったのかと思われるますが、だとすれば、今度の問題の一番ネックになっているこの免除条例の効力がどうなのかと思いますが、いかがお考えでしょうか。

次に、定例監査について伺います。館山市では、民間から1名、議会から1名、2名の監査委員で担当しておりますが、定例で月1回の監査が行われております。監査の作業はどのように行われておりますでしょうか、具体的にお答えをお聞かせください。私は、監査がきちんに行われていれば、ここまで被害を出さずに済んだのではないかと考えております。できるだけわかりやすく、具体的にお答えをいただきたいと思います。

次に、このようなことが二度と起こることはあってはならないことですが、この出来事を踏まえてチェック体制を市ではどのようにお考えでしょうか。

次に、任意弁済について伺ってまいります。この問題を引き起こした2人の元収入役から監査報告を受けて、みずからが約6,500万円の資産価値があると言われているものにつきましての寄附の申し出があったということですが、公金を黙って勝手に使って市に多大な損害を与えたわけでありますから、寄附ということではなく弁済をするのは当たり前のことであります。このことについて、市はどのように考えているのでしょうか。寄附ということと弁済であるということの違いをはっきりと指摘をしておきたいと思います。

次に、大きな2点目の質問に移ります。基地と自治体とのかかわり方について伺ってまいります。6月18日、ハワイ沖で環太平洋合同演習において、いわゆるリムパックという呼び方をされておりますが、ここで館空基地所属

の最新鋭の対戦ヘリ、S H 60 J がエンジン付近から火を吹くという事故を起こしました。たまたまこのヘリに同乗をしておりましたのがリムパック96を取材するためのマスコミ各社であったことから、報道をされました。どこの基地の所属機であるのかという報道はなぜかされませんでした。かねてから一部で指摘をされているように、基地での事故あるいは訓練中の事故などの公表ということについて非常に消極的であります。私は、この事故を起こしたヘリと同型の機種が私たちの住むこの館空基地にも存在することを認識しておりましたので、館空基地に対しまして問題の事故機が基地内所属であることの確認、そして原因が明らかにされるまで同型機の運行をしないようにとの申し入れを行いました。また、市に対しましても、市民の安全を守るために市として同様の申し入れを基地に対して行うようお願いをしたところであります。

この7月31日、基地内で群司令との面会を得て、事故の結果報告をいただきました。今後の市との連絡の方法についてをお願いをしまいいりました。基地のヘリが海上あるいは市内上空を飛んでいるわけですから、市に対して事実の報告と結果報告ということルール化してほしいと要請を行いました。市民の安全を守るための体制づくりをお考えいただきたいと思いますが、現在残念ながらそういう体制はないと思いますが、いかがでしょうか。

最後の質問です。食中毒O 157対策について伺います。全国で猛威を振ったO 157であります。県内では10日現在37人の感染者数ということであります。原因が究明されないまま、私たちの食生活の場にも一種のパニックが起きたことは皆さん御承知のとおりでございます。そういった状況の中で、体の弱い幼児あるいは高齢者の方々が感染しやすいとされておりました。そういった方々が利用されている市内各施設ではどのように対策をされましたでしょうか。

また、9月に入りまして学校給食も再開をされております。恐らく現場で働く人にとっては大変な負担をおかけしていることと思います。O 157と限らず、食中毒に対する対応もこの時期、関係者の方々、大変苦勞をするわけですが、ことしの夏は特に民宿のキャンセルあるいは生鮮食品を扱う

お店の方々の収入減など大きな影響を与えたと聞いております。こういうときに行政が素早い対応で間違った情報をただす行為、そういったことをすべきではなかったのかと思っております。この問題についてどうお考えでありましょうか、お尋ねをいたします。

以上、質問を申し上げました。答弁をいただきましてから再質問をいたします。

◎議長（山中金治郎君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午後0時04分 休憩

午後1時00分 再開

◎議長（山中金治郎君） 午後の出席議員数25名、休憩前に引き続き会議を開きます。

鈴木議員の質問に対する答弁を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、NTT株購入の監査報告についての私への所見を問う問題でございますが、この問題につきましては私自身極めて激しい憤りを持つものでございます。先ほど本橋議員にお答えしたとおりでございます。市民の信頼回復のために再発なんてことはあってはならぬ、絶対許すべき問題じゃございませんけれども、再発防止に努めるとともに、私自身——市長の私みずから襟を正すと、こういう意味で処分を検討しております。

小さな第2点目の株購入時の名義についての御質問でございますが、購入に際しまして館山市収入役名義で証券会社から保管預かり証を受領したものでございます。現金の流れにつきましては、指定金融機関でございます千葉銀行館山支店の収入役口座を通して支払いをしております。

小さな3の証券会社とのかかわりにつきましては、代表監査委員より御答弁申し上げます。

小さな4点目の免除条例についてでございますが、昭和天皇の崩御に伴う

職員の懲戒免除及び職員の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例についての御質問でございますが、条例は本来例規類集に掲載されるべきものと考えますが、掲載されていなくとも、その条例の効果には影響ございません。

小さな5の定例監査につきましても、代表監査委員の方から御答弁申し上げます。

小さな第6点目、再発防止のためのチェック体制についての御質問でございますが、公務員倫理の徹底を図るとともに、会計事務の独立の確保と効率的な事務処理との調整を図る中で、各種基金を含めまして現金の管理について安全性、確実性が確認できる体制を強化いたします。

小さな7点目、任意弁済についての御質問でございますが、2人の元収入役から館山市に対しまして不動産及び現金による任意弁済の申し込みがございました。損害賠償責任につきましては、債務が消滅しておりますので、一部検討中の物件を除きまして寄附として受け入れることといたしました。

次に、大きな第2、館空基地に係る市民の安全を守るための体制についての御質問でございますが、基地内及びヘリコプターの飛行については、日ごろから安全対策や事故防止対策の徹底を図り、訓練を行っていると同っております。また、市民の安全を守るため、消防等防災活動への協力と館山市合同防災訓練等に協力をいただいているところでございます。

なお、リムパックの事故についての報告は受けております。今後とも安全管理の徹底を図っていくとのごことでございます。

大きな第3、食中毒O 157対策についての御質問でございますが、社会福祉法人館山老人ホームで運営いたしております特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、デイサービスセンターにつきましては、国、県の指導に基づきまして食中毒予防に必要な対応がなされているところでございます。

保育所につきましては、保健所による適正な食材管理の指導を受けるとともに、加熱調理の実施、飲料水の煮沸、手洗いの励行等、給食の安全確保に努めております。

学校給食につきましては、給食センター及び学校現場に対し調査や指導を行っており、万全を期しているところでございます。



以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 山田監査委員。

（監査委員山田教和君登壇）

◎監査委員（山田教和君） 大きな第1の第3点目、株を購入した2人の元収入役と証券会社とのかかわりについての御質問でございますが、従来から現先等の取引がございました証券会社から購入したものと聞いております。また、株式購入は山田及び渡辺元収入役からの購入希望に対して証券会社が対応したものであり、この取引につきましては調査のできる範囲で十分な調査を行い、違法な行為はなかったものと判断しております。

次に、第5点目、定例監査は具体的にどう行われきたのかとの御質問でございますが、会計課から送付される収入支出伝票及び証拠書類等により、内容の照合、確認及び計数の確認を行っております。また、残高の確認については、金融機関別預金残高総括表及び金融機関の残高証明書により計数の確認を行っております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） それでは、再質問させていただきますが、その前に通告を1つ地震に驚いて忘れてしまいましたので、関連でこの中で再質問させていただきますことをまず申し述べておきます。

それで、これは一括して——NTT問題一括して質問等をさせていただきますので、御了承願いたいと思います。まず、NTT株の名義についてなんですが、当時の状況を考えますと、NTT株を1株でも買うことについての大変さというのがあったかに思うんですが、そういうことを踏まえまして大量の株がそれぞれの証券会社に分かれていても買えたということが非常に不思議でならないというふうに思っているんです。多分これだけの大量の株になりますと、所有者も恐らくいろんな方々、名義人がそれぞれ違うんではないかというふうに思っていますが、いわゆる専門的な用語で言えば混蔵所有というんですか、そのような何か言い方をされるといふふうにも聞きましたが、その株なんですけれども、先ほどの答弁では証券会社が保管をしていた

ということで了承をしましたが、それぞれの証券会社でそれぞれの株数を保管をしていたと。したがって、預かり証の発行があったというわけですので、3つの証券会社からの預かり証があったという判断でよろしいのでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） それぞれ3社から預かり証が出ていたと、こういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 3社から出ていたということは、預かり証が3つあるということですよ。

それで、私そういう預かり証というのがわからない — どのようなものなのかというのがわからないんですが、私たちが常日ごろの生活の中でちょっと書くような預かり証とは違い、いわゆる証書ですから、これは立派な — きちっとしたものだというふうに思うんですが、その預かり証なんですけれども、どこの部署でどのように保管をされていたのでしょうか。

また、証券会社にこれ株券の保管をお願いするときは、保管料というのを払わなきゃなんないと思うんですが、その場合の保管料の支出はどこからどういう名目でされていたのか、お教えをいただきます。

◎議長（山中金治郎君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 預かり証につきましては、収入役室、現在は会計課になりますが、そこで保管をいたしていたということでございます。

それから、保管料の支出につきましては、保管料として会計から支出しているということはございません。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 収入役室で預かり証を保管していたということで、今最後の方がちょっと聞こえなかったんですが、会計から保管料として支出をされていたということですか。ただ単なる保管料として支出をされていたということですか。それとも、NTT株の保管料として書いてあったのか、その辺の自主的な — 事務的なことですが、その辺をはっきりお聞きをしたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 通常保管料は年間幾らということでもって当然かかるわけですが、その支出をしている事実がないと、こういうことでございました。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 支出をしていることがないということは、保管料——株を私はやったことがないんでわかりませんが、ただ聞くところによると、株を預ける場合は預かるけれども、保管料はいいですよというようなところもあるというふうに聞いておりますので、多分そういうことで保管料は支払いになるということがなかったんじゃないかなというふうに思うんです。

株の預かり証の名前なんですが、実質的な株の持ち主、住所、氏名、これはどなただったんでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） ちょっと傍聴人の方に申し上げます。

傍聴人は、議事につきましては可否を表明したり会議の妨害となる行為は禁止されておりますので、静粛に願います。

なお、議長の命令に従わないときは、地方自治法第130条の第1項の規定により退場を命じますから、念のために申し上げます。

収入役。

◎収入役（永野 修君） 株の名義につきましては、当然買いましたときにはいわゆる第2次、第3次放出ですから、大蔵省から買ったわけですが、これを預ける段階で、これは混蔵預かりということでもって——混蔵預かりで株数はこれだけ——例えば60株なら60株預かっていますよという預かり証をいただくわけですが、混蔵預かりということでもって交り合っていて、だれがだれだかわからないというか、いわゆるとにかく株数が確保してあるということでございまして、その名義につきましてはその時点では混蔵預かりということでもって、特にその名義はございません。

ただ、その名義を書きかえるときには、当然この株をということでもって、それぞれその中から選定してくることになると思いますけれども、混蔵預かりの場合にはそのような形でもって株数のみが確保されていく、こうい

うことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） そういう株のシステムについては、私も正直言って不勉強なものですから、この短い期間内で大変問題が今広がっているところ、口のかたいところをやっとお聞きするような状況があったわけです。

それで、今もこの件については勉強をしておるところですが、そういった制度上の問題ということにつきまして、ここで議論していると時間がもったいないものですから、株券の保管振りかえ制度、平成3年の10月にこれできたわけなんです、このときにたしか疑問が1つあるんですが、山田元収入役が株を買った時点で、なぜ名義をきちんとしなかったのかというような問いかけに対して、いつでも売れる状態にしておきたかったというようなことを述べておられます — 述べておりますが、私はこの制度が — この保管振りかえ制度ができてからの方が、売りたいときには直ちに売れるというようなことになっていたわけで、その前の段階では山田元収入役が言うように、いつでも売れる状態ということは当たらないのではないかと。そういったことに対してのちょっと疑念、これは本人に詳しくお聞きをしないと、その辺のことはちょっとわかりませんので、ここでお聞きをしても多分むだだと思います。

この辺のことで、多分名義書きかえをすることで株券に所有者名を館山市と書くつもりだったのか、また山田氏の名前を書くつもりだったか本人に聞くしかないんですが、株を所有していたと事実が名義をきちんとすることは、証拠として残ってしまうということにもなるわけで、川上元収入役の在任中に保管振りかえ制度によって名義書きかえをしたというふうなことにつながっていったのかなというふうに思うんですが、この川上元収入役の在任中に行われた名義書きかえなんです、そのときの名義人の — これ住所、氏名でお答え願いたいんですが。

◎議長（山中金治郎君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 保管振りかえ制度になってから名義を書きかえたということではございませんで、いわゆる実質株主の届け出をして実行主体

というか、配当等を受け取った、こういうことでございまして、名義を書きかえをしたという事実はございません。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） その点は — 名義を書きかえたということがないということについては了承をいたしました。

ただ、保管振りかえ制度を利用するということにつきましては、この 3.2 株の譲渡権というのがございましたよね。これをもらうことによって、こういう言い方がいいのかどうなのかわからないけれども、3.2株をもらってこれ初めて配当金を得るというようなことになっているのかと思うんですが、この辺の — ひとつわからないんですが、ここで名義の問題にちょっとこだわって申しわけないんですが、3.2株のこれ譲渡をこの制度によって得たときに、じゃそのまま例えば預かり証、このときから要するに配当金を得ているわけですから、口座なりにそれは入っているということは前段御答弁いただいて承知をしておりますが、だれの名前でこれをやったのかなというのがちょっとわからないんですが、これ教えてください。

◎議長（山中金治郎君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） だれの何とおっしゃいましたでしょうか。

◎6番（鈴木順子君） 名前です。

◎収入役（永野 修君） 実質名義に関する届け出をして、その株については館山市収入役 — 前収入役の川上義雄氏の名義になっておりますので、その名義で当然のことながら配当を受けた、こういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 御自分の — それこそ立場をきちんとお書きになった上でのことだ — これ褒めているんでありませんので、その辺はちょっと。

それから、証券会社と、この収入役たちのかかわりなんです、先ほどの答弁いただいたことと言えば、この件については2人がないと言えないという判断しかできないわけで、みずからやりましたということは言うことはないでしょう。

ただ、ここで言えることは、悪いことだと知りつつも行ったと言っている

わけですよ、山田収入役は。渡辺元収入役も、それ承知で — 違法性があるということを承知しつつもやったという発言をしていらっしゃる。こういったことをしながら、特に山田元収入役についてはきちんと引き継ぎをされなかったと、後始末をしていかなかったというような非常に無責任な人です。こういった人の言うことに信憑性があるのかどうなのか、この辺についてはどうやって監査の中で追及なさったのか、お聞かせをいただけますでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君） 本人のほかに当時の収入役室長及び係長からの事情聴取も行っておりますが、これらの供述から山田元収入役が個人的な利益をはかったものではなく、館山市のためにNTT株を購入したものと判断しております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 個人的な利益のためにという言い方をされておりますが、個人的な利益というのは何もお金や金品だけじゃないんです。自分の身分についての利益を求めるという考え方もあるわけです。そういったことと言えば、御自分の利益ということ — 自分の利益ということには当たらないというふうに私は判断するんですが、次に免除条例について伺いますが、私の方でそれこそ弁護士の方何人かにこの件についての問い合わせをいたしました、解釈が弁護士さんによってそれぞれ違うわけです。この件についての私の — どういった方々あるいは何人の方にこの件を相談しながらやっていたか、また判断されたのかというような問いかけに対して、1人の弁護士さんというふうにお伺いしておりますが、私だったら、少なくとも自分に損害を与えた者がその損害を取り返すためには、何人もの人に聞いて一番いい策を与えてくれる人にお願ひしますけれども、その辺はどうだったんでしょうか。いろんな方々に相談をするということあったのかどうなのか、その辺をちょっとお伺いをいたします。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいまの御質問でございますが、この免除条例の適用につきましては、全国市長会の弁護士1人に相談をしながら、また内部でも法律あるいは判例等を調査しながら進めてきたわけでございます。

この1人の弁護士についてはいかがかということではございますけれども、この事件の初めから細かい相談をしております、その状況等を十分把握した弁護士でございまして、また法律の専門家として私どもの方も信頼を寄せている方でございます。その方の――もちろん私どもの方としてもつけ加えにはなりますけれども、免除条例が明らかになってきたときに、元収入役から損害賠償を求めるにはどのようにしたらいいか、免除条例を適用しないようにするためにはどういうふうにしたらいいかということをまず弁護士に再三にわたって相談したわけでございます。私どもの方が初めから責任を免除しようという立場ではございませんで、何とかして市のこうむった損害を回復しようと、何らかの犯罪に該当するのではないかとということで、再三にわたって私どもの方調べた結果を弁護士にぶつけてまいりまして、残念ながら免除条例の適用やむなしという結論に至ったわけでございますが、今お話ししましたように、この経緯を十分承知していただいております弁護士の指導に従って進めてきたわけでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 考え方なんか議論してももったいないです。この免除条例についてですが、やはり関係者の方、私が聞いた限りでは判断がいろいろ違いますので、これは法的な場面でまた論じてもらうしかないのかなというふうに実感しております。

それで、そこでどうしてもこれは理解できないんですが、条例集にも載っていないということ、それでも生きている、効力があるという判断、確かに条例ですから議会を通過しているわけですから、そういう事実としてはあるんですが、これを載せなかったという――条例集に載せなかったというのは、これは単なる事務上のミスだったんでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 免除条例が例規類集に載っていなかった理由につきましてでございますけれども、平成元年の2月に臨時市議会を開催しておりまして、昭和天皇崩御に関連いたします条例が2件議決されたものでございます。そのうちの1つは館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の臨時特例を定める条例でございます。これは大喪の礼のあった日、平成元年2月24日でございますけれども、この日を職員の休日にするために定められた条例でございます。

2つ目といたしましては、昭和天皇の大喪の礼の行われる日における公の施設の設置管理条例の臨時特例を定める条例でございます。これは同じ日に公民館とか市民センターなどの市の施設を休館にするための条例でございます。

続きまして — この2件の条例につきましては、平成元年2月24日限りの条例ということで制定したわけでございます。

続く3月の定例市議会におきまして、現在問題になっておりますいわゆる免除条例が制定されたわけでございますけれども、この3件の条例を一連のものとしたしまして、言ってみますと一時的、臨時的なものということで、3件ひっくるめた形で例規類集に登載しなかったものと思っております。

以上であります。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） お答えは簡潔にお願いいたします。

条例のこの取り扱いにつきましては、法的な解釈の部分もちょっとあるものですから、あえてこれ以上はここで申し上げませんが、先ほどちょっと通告をしておきながら、質問をいたしませんでしたでしたが、これ関連ですので、大事な部分ですので、お聞きをするわけなんです、お金 — 現金管理のお金の管理あるいは財産管理も含めてなんです、そういった問題について御質問をいたしますが、世間では今回のこの件は収入役が行ったことだから、当時収入役 — 今会計課ですが、当時は収入役室があったわけで、そこを舞台にそこだけの中で作業が行われたというとらえ方をしていらっしゃる方がいるわけなんです、これは作業ですから、収入役一人ではできないわけです。



渡辺元収入役は、内部資料であります資金運用表でN T T株の購入を知ったというふうに述べておられます。資金運用表、それは通常どこの部署でどんな取り扱いされているのでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 収入役。

◎収入役（永野 修君） 通常会計課で資金管理をしているわけですから、会計課で運用表によって運用している、こういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 会計課で — に置かれていた会計課で事務処理をしていたという判断でよろいわけですね。

決算報告書などへの改ざんがされていたということなんですが、これはそうなると会計課 — 今の会計課、当時の収入役室、その部署の人たちが行っていたということで — 判断でいいんですか。

◎議長（山中金治郎君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 決算の調製は収入役の権限でございますので、収入役の権限で調製をいたしたと、そういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 収入役室が決算の調製をするのは市の条例集見ればわかるんですが、そういうことではなくて実際に職員が携わったわけですね、この件について。収入役一人でこれ改ざんしてやったわけじゃないでしょう。そのために監査委員の方で聞き取りを — 職員の方々の聞き取りを行ったわけですね、その辺のことを聞いているんです。それいかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 収入役の指示によりまして、会計課の職員が一連の作業をしたと、こういうことでございました。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 今回の監査委員の調査に対しまして、当時の財政課長初め財政課職員8名、これが聴取を受けておりますが、監査委員に、あるいは事務局長でもよろしいです。これ財政課の職員を聴取なさった理由、これをお聞かせください。

◎議長（山中金治郎君） 監査事務局長。

◎監査事務局長（田村哲也君） 財政課では予算の執行管理を行っておりますし、基金の管理の関係がございますので、財政課の職員から事情を伺いました。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） ということは、これを財政課の職員——当時の職員を含めて聞かれたということは、やはりここに株の購入を——あるいはいろんな手続、私たちが知らないところで行われていた改ざんであるとかそういった手続、そういったことが収入役室だけで行われていたんじゃないか、財政課もこれは一緒にやっていたんじゃないか、何らかかわり合いがなかったのかどうなのか、その辺のことを具体的にお聞かせ願えますか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 今お話がありましたように、収入役から定期の報告を受けている——財政課についても受けているわけですが、財政課への報告では株につきましては現金として保管されていることとされておりまして、さらに現先で運用されているという虚偽の報告がなされていたことから、財政課においては株取得の事実を知り得なかったということでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 時間がなくて答弁があれでもったいないんですが、一言お伺いしますが、例えば収入役室でこれは現金管理しています。ここにいてなんですが、例えばお金を支出をしたい場合、そういうときに収入役室だけで判断していいんですか、判断して出せるんですか。例えば財政課の承認が必要であるとか、そういった流れというのはないんですか。

◎議長（山中金治郎君） 収入役。

◎収入役（永野 修君） 予算の執行に基づいて、その支出命令に従って支出するものと、それから予算に基づかない、いわゆる歳計現金の支出といいますか、保管——これ出納保管、これ2つあると思いますが、現金の出納及

び保管につきましては、特に歳計現金の予算に基づかないものについては収入役の権限でやっている、運用していると、こういうことでございました。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 非常に時間がもったいないんですが、永野収入役、あなたは資金運用表を財政課長当時ずっと長い間やっていらっしゃいました。この資金運用表ごらんになったことがありますか。

◎議長（山中金治郎君） 収入役。

◎収入役（永野 修君） 会計課の内部資料としての資金運用表は見ておりません。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） あなたが財政課長時代にこの点、資金運用表は会計課ということでごらんになったことはないということで、事の次第を現在に至って知ったということなんでしょうが、ただこれは機会があったらまた何かの形でお聞きをしなければなんないんですが、やはり財政課の職員が8名も聴取を受けているというこの事実に対して、そこで何がなされたのかということに対してもまたきちんとしていきたいというふうに思います。

時間がちょっとありませんので、大変もったいない質問の仕方をしてしまったんですが、やはりこの場に2人の元収入役、2人をきちっと呼んで生の声を聞きたかったわけですが、一般質問の中でそれもできないということですので、やはり6月議会からお願いしているように、百条委員会の設置を求めてきちんと説明をしつつ、これからの二度と起こらないための体制づくりということを私たちも真剣に考えていかなければならないというふうに考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 以上で6番議員鈴木順子さんの質問を終わります。

次に、4番議員小幡一宏さん。御登壇願います。

（4番議員小幡一宏君登壇）

◎4番（小幡一宏君） さきに通告をいたしました4点について質問いたします。

まず1番目に、館山市N T T株問題についてお伺いいたします。元収入役2名によるN T T株購入にかかわる約4億円に上る巨額損失は、市政及び市財政を揺るがす重大問題に発展し、市の内外に大きな波紋を投じ、同時に市民の名誉を著しく傷つけ、また市民の行政に対する信頼感を喪失したこととなり、市民からこの前代未聞の不幸事に一斉に驚きと怒りの声が舞い上がりました。これに対する市執行部の責任は極めて重く、この事実を厳粛に受けとめられ、市政、財政の安定、市民の信頼回復を図る努力は必要と考えます。

一方、市長は直ちに監査委員による監査を指示し、事実確認、賠償責任のありなし、賠償額の決定の3点を早急に明らかにし、徹底解明に乗り出す旨の釈明を行ったため、市民はその監査結果と市側の対応策の発表をかたずをのんで見守っておりましたところ、8月20日に元収入役2名の株購入責任はあるとしながらも、昭和天皇崩御に伴う職員の賠償免除条例の適用により賠償責任の消滅との意外な結果を中心とする報告書の説明にとどまり、損失金の補てんについての具体的対応策の提示もないまま、欠損金処分する旨の報告内容には市民の批判と疑問点を残しながらも、本件の大概は明らかにされたと判断いたしております。

加えて、元収入役2名よりそれぞれ財産処分、また現金による任意弁済の申し出があり、その弁済額にはなお議論の分かれるところでありますが、両氏の犠牲を払った誠意に対し、英知を尽くした上での妥協点を見つけ、実損失残補てんに対する市民合意の得られる解決策を早急に提示することは、市執行部及び私たち議員に課せられた最優先課題と存ずる次第であります。

以上、本件の経緯に沿った私見を申し述べ、市長の御所見を伺うべく、以下質問いたしたいと存じます。

まず、監査報告の疑問点から2点お伺いいたします。監査報告書2ページに、1として監査請求の要旨の文中に山田元収入役は昭和62年11月12日、その保管にかかわる館山市財政調整基金からN T T株70株、1億7,850万、また歳計現金からN T T株40株1億200万で購入したとの記述がありますが、この一連の事務処理は元収入役が1人ですべてを行ったのか、また正規の事務処理で行われたのかについてお答えください。正規ルートで執行された場

合の関係者数及びその決裁者等について御説明いただきたいものであります。

次に、債務の免除条例第3条の債務発生時の再確認であります。つまり株式の購入時点で債務の発生と見るのか、また売却時点が発生とするかについてお伺いいたします。

小さな2番目として、山田元収入役から任意弁済の申し出のあった財産物件の資産価値についてお伺いいたします。本件については、市側の発表によれば資産価格は4,000～5,000万円と見込んでいるとのことですが、これは実勢価格か評価額なのか、資産評価の基準をお知らせください。

3番目に、再発防止チェック体制の強化を具体的にお尋ねいたします。このたびの巨額損失問題発生の原因として、市役所の体質や管理体制に問題があるとの指摘は、議員また一部市民から出ていることは本件関連の新聞報道等で御存じのことと考えます。事実、市幹部はこのことを認める意味にもとれる、このようなことが二度と起こらないようにチェック体制の強化を図りたいとのコメントを発表されております。市民が本件の対応策の1つとして今一番求めているところでありますので、ぜひともお聞かせ願いたいと思います。

4番目として、損害残高の欠損処分についての対応策についてお伺いいたします。市長は、監査結果を受けて損失金約2億3,000万の処分は欠損金として今年度決算で処分を行う意向との発表をされ、その後収入役2名より任意弁済として6,500万円の申し出があり、市長さんはこれを受け入れると発表されましたが、この分を差し引いてもまだ1億7,000万円の巨額な損失金があるわけで、これを無条件で公費で補てんすることは到底市民の理解を得ることは難しく、また議会としても容認することはできません。市民の提言にもあるように、市役所、議員、市民を含めた市全体の改善、行政改革の推進等の施策を講じ、間接的欠損金の軽減対策を示されることが市民の負託に応えるべきだと考えますが、いかがお考えでありましょうか。

2番目、館山市新行政改革大綱についてお伺いいたします。景気の長期低迷による深刻な財政悪化に悩まされ、社会経済情勢の変化に伴う行政需要の多様化する中で、新たな財源を生み出すための行政改革が大きな課題として

注目され、既に各自治体でさまざまな取り組みが進められていることと思います。民間企業においても、バブル崩壊に伴い、生き残りをかけ人員整理や年功序列の見直しを初め、既存システムの総点検、リストラが徹底的に行われています。今や機構改革の断行は官民間問わず時代の要請であり、また国民注視の的であります。今年3月に市長より示された館山市新行政大綱には、「行政サービスの一層の向上を目指して」をテーマとして、大綱策定の経緯から行政改革の必要性、重点事項推進の基本方針、さらに3カ年の実施計画等が網羅され、大変格調高いできばえと拝読いたしました。しかし、どんな大綱であっても、これが実行されなければ単なる作文、絵そらごとにすぎず、一片の価値もございません。大綱の中にもあるとおり、全庁を挙げて積極的に取り組んでいただき、住民サービスの向上に努めるべきと考えます。この大綱の積極的推進について市長の御見解と御決意を伺い、以下質問いたしますと存じます。

まず初めに、本実施計画の進捗状況を具体的にお聞かせください。

2番目、人事登用制度の見直しについてお伺いいたします。元収入役株購入による巨額損失問題の発生原因として、市行政機構の体質や現執行部のリスク管理の甘さが批判され、是正対策の早期確立が求められているところがあります。終身雇用、年功序列といった公務員制度の中にこうした職員のチャレンジ精神の低下が組織の硬直化につながったものと推察いたしますが、この現状を打破するために現行の人事制度の見直しが必要と考えますが、いかがでございでしょうか。他の自治体で採用している課長立候補制、希望の職場公募等の実例を参考に、新制度の導入を図るべきと考えますが、市長の御所見をお伺いいたします。

3番目に、今年度市職員の採用計画は行革大綱に整合するのでしょうか。館山市は、このたび平成9年4月採用予定の市職員9名の募集を発表されましたが、館山市行革大綱の中では実施計画期間を当面平成7年度から平成9年度までの3カ年と限定した上で重点事項及び実施計画が具体的に明記されており、どの項目においてもコストの削減が前提となっておると考えます。この9名にも上る安易な増員は行政改革の精神に反し、市財政にも影響を及

ばすものと考えておりますが、いかがお考えになりますか。また、この採用に要する費用の予算措置はどのようになされているのかについてもあわせてお聞かせください。

次に、学校給食センター業務の民間委託についてお伺いします。学校給食センター業務は、館山市、富浦町、三芳村の組合組織で運営がされており、館山市の直営事業ではありませんが、同給食組合の管理者に組合規約により館山市長の選任が義務づけられており、組合費の分担金も3関係市町村の中で最高額を支出していることから準直営事業とみなし、市長の御見解をお尋ねするものであります。

館山市新行革大綱には、学校給食センター業務の文言は当然記載されておりますが、当該大綱6ページに民間委託推進対象業務として人件費、物件費などの経済コストが直営に比較して有利な業務との記述がございます。私が入手しました地方自治経営学会の資料の中に、学校給食について直営委託のコストを比較した調査結果による数値が記載されており、委託は直営のほぼ55%のコストで済み、委託が直営に比べコストが低い要因として、継続して仕事がない業務の人件費にありと分析しております。人件費コストの低い民間委託についての御見解をお聞かせください。

3番目に、ウェルネスリゾートパーク計画についてお伺いします。本計画は、館山市の21世紀における姿をイメージした海洋性リゾートタウンの中核拠点として昭和62年に策定され、事後用地の先行取得を中心に事業を推進されてまいりましたが、平成7年3月の館山市複合リゾートカントリー整備計画調査結果をもって開発テーマをマンガ共和国構想と特定した上で、事業PRパンフレットを作成、市内外に配布し、今年7月には事業予測基本調査にも着手されたと伺っており、構想の実現に向け、さらに一歩前進したことで評価いたしますが、本構想の総事業費は概算で560億円、年間利用者100万人を見込むという膨大なものであり、実現にはまだクリアしなくてはならない課題が多く残っており、今後の運営が注目されております。

そこで、この構想実現に対し、市長はどのように取り組んでいかれるのか、お伺いいたします。

まず、現在までの進捗状況についてお聞かせください。土地の取得状況、マンガ共和国パンフレットに対する反応、スポーツゾーン整備見通しについてお答えください。

2番目に、用地の取得価格についてお尋ねいたします。今年8月19日に東京国税局より平成8年分の路線価の発表があり、その内容は千葉県で見ますと県下14税務署管内の最高路線価は、地価の下落を反映して4年連続で前年を下回り、宅地平均額は前年より15.5%のダウンであり、昭和63年の水準に戻るといものでありました。館山市は、本計画の用地を千葉県土地開発公社に委託し、先行取得を開始されておりますが、現行の取得価格は路線価下落の現状と照らし合わせ、どのようにお考えでありましょうか。

次に、館山市はこのほどマンガ共和国構想の事業予測基本調査に着手されたと伺いましたが、この調査の内容、目的についてお聞かせいただきたいと思ひます。

最後に、本構想の事業に向け、積極的な推進活動が必要であり、この活動を支えていく活動母体の確立が急務であると考えますが、今後どのような方針で対処なされていくのか、お伺ひいたします。

最後に、O 157による集団食中毒の問題についてお尋ねします。これは、先ほど鈴木議員からも詳細にわたっての質問がありましたので、要点だけをお尋ねしますが、9月3日に2学期の給食を再開されたと伺っております。食中毒は夏場より意外にも秋口が一番多いとの指摘もあり、その衛生管理が重要になってくると考えます。

そこで、学校給食センター、老人配食サービス業務の衛生管理システムの内容をお聞かせください。

以上、答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの小幡議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、NTT株問題についての第1点目、現金保管及び出納事務の流れとチェック体制についての御質問でございますが、御承知のように現金



の出納及び保管は収入役の権限となっておりますので、今回のNTT株購入につきましても収入役の指示に従い、会計課職員が指定金融機関であります千葉銀行館山支店の収入役口座を通して証券会社に払い込みをしております。

小さな2点目、免除条例の問題でございます。昭和天皇の崩御に伴う職員の懲戒免除及び職員の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例第3条の債務発生時点の御質問でございますが、2人の元収入役は株を購入するため、その保管する現金をそれぞれ購入代金として支出したときに現金の亡失で、その時点でそれぞれの債務が発生しているものでございます。

次に、山田元収入役から任意弁済の申し込みのあった物件の資産価値についての御質問でございますが、この物件の評価につきましては土地は約3,000万円、また建物は約1,500万円で、合計4,500万円程度と考えております。

なお、詳細につきましては、総務部長より説明いたさせます。

次に、NTTの第3点目、再発防止チェック体制の強化策についての御質問でございますが、先ほど鈴木順子議員にお答えいたしましたとおり、公務員倫理の徹底を図るとともに、会計事務の独立の確保と効果的な事務処理との調整を図る中で、各種基金を含め現金の管理について、安全性・確実性が確認できる体制を強化したいと存じます。

次に、第4点目、損害残高の欠損処分についての御質問でございますが、歳計現金及び財政調整基金で生じた損失につきましては、平成8年度決算で欠損処分を行うこととなりますが、この事実を厳しく受けとめまして、今後より一層効率的な行財政運営に努めてまいります。

大きな第2、館山市新行政改革大綱についての第1点目、実施計画の進捗状況についての御質問でございますが、既に水道事業経営合理化検討部会及び国民宿舎経営合理化検討部会の設置、マルチメディア自主研究グループの発足、さらに情報公開条例の制定に向けて検討に着手するなど、基本方針に基づきまして実施計画の積極的な推進を図っているところでございますが、実施計画の進捗状況につきましては年度末に取りまとめの上、広報等に掲載いたしまして、市民に周知する予定でございます。

なお、事務事業の民間委託等に伴いますコストの削減につきましては、で

きる限り数値により示すよう努めてまいりたいと考えております。

第2点目の人事登用制度の見直しについての御質問でございますが、館山市におきましては人事異動方針を検討し、職員研修の充実強化を図る所存でございます。登用試験、立候補制等につきましては考えておりません。

第3点目、本年度市職員採用計画は行政大綱に整合するかとの御質問でございますが、職員採用につきましては従来から少数精鋭を基調に定員管理に努めてきたところでございまして、今後も新行政改革大綱にのっとりまして、より一層の適正化を推進してまいる所存でございます。

次に、第4点目の給食センターの民間委託についての御質問でございますが、給食センターは館山市、富浦町及び三芳村で組織する一部事務組合の共同施設でございますので、本日の御意見は貴重な御意見として承っておきたいと思っております。

大きな第3、ウエルネスリゾートパーク計画についての第1点目でございますが、現在までの進捗状況についての御質問でございますが、用地取得につきましては53.8%でございます。

次に、マンガ共和国パンフレットに対する反応につきましては、大企業等からの問い合わせを受けており、興味を示しておる企業もあるところでございます。

また、スポーツゾーンの整備の見通しにつきましては、ちば新時代5か年計画の中で特色ある公園整備等の検討調査を行い、運動公園等スポーツ関連施設の整備などを促進し、ウエルネスをテーマとした定住環境づくりを促進するとされております。引き続き、千葉県に対しまして早期整備を要望してまいりたいと考えております。

次に、第2点目、取得価格についての御質問でございますが、取得価格につきましては不動産鑑定評価に基づき決定いたしまして、各地権者に提示してございますので、今後とも同一価格で取得を進めてまいりたいと考えております。

第3点目、事業予測基本調査についての御質問でございますが、目的につきましては事業性に対する考え方を具体的に示し、民間企業の進出契機とな

るよう調査を行うものでございます。調査の内容につきましては、需要予測、事業収支の検討、事業化の手法等の調査を行うものでございます。

第4点目、今後の事業推進活動についての御質問でございますが、今年度内に民間企業を募り、事業化に向けての検討委員会を組織し、本事業を推進してまいりたいと考えております。

次に、大きな第4、O 157によります集団食中毒の対応策についての御質問でございますが、配食サービスにつきましては現在実施に向けて準備中でございますが、実施に当たりましては国、県からの指導に基づきまして食中毒の防止に努めてまいりたいと考えております。

なお、学校給食につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第4、O 157による集団食中毒の対策についての御質問でございますが、学校給食につきましては館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合においてトイレの改修、冷凍庫の増設、検便回数をふやすなど、そのような体制で臨んでおります。また、学校に対しましても、保健衛生上の配慮について調査や指導を行うなど、万全を期しておるところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいま山田元収入役から寄附の — 任意の申し込みのありました物件の価格につきまして、市長から回答いたしたところでございますけれども、私からその詳細についてお話しさせていただきます。

館山市湊に存在いたします山田元収入役の自宅でありました軽量鉄骨づくり2階建ての居宅132.56平方メートルと附属屋 28.98平方メートル及びこの敷地399.64平方メートルでございまして、合わせまして約 4,100万円、これに山本にございます畑 3,591平方メートル及び山本の原野42平方メートルが約 400万円で合計 4,500万円程度と見込んでおります。

なお、この価格につきましては、近所にございます県の基準地から推定したもの、それから軽量鉄骨づくりの建物の推定建築費から推定いたしましたものでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 4番小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） それでは、まず監査報告の疑問点の中の一番最初にお伺いしました、これ鈴木議員と重複しますが、要するにこのNTT株70株、1億7,850万、これが本当に収入役一人の手で行われたのか、収入役室で行われたとすれば何人の職員の方が、例えばその事務の流れといいますか、伝票に確認印を押すとか、そういうようなことを再度お聞かせ願いたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 山田元収入役が購入いたしました株の手続でございますが、今市長の方の答弁にもございましたように、収入役の指示に従いまして会計課の職員が指定金融機関に振り込みの指示をしたということでございます。したがいまして、収入役の指示に従いまして、当時収入役室長及び出納に関係する職員がこれに携わったものと考えております。

◎議長（山中金治郎君） 小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） 館山市財務規則226条、ここには基金の管理は——ずっとあるんですが、財政課長が行うと、このように記述されていると思いますが、このときの要するに管理について、財政課長はどのようなかわりをされたのか、お伺いいたします。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 規則に基づきます財政課長の関与でございますけれども、基金の管理は財政課長が所掌しておりまして、基金の現在の状況、基金がどのような状況になっているかを提示の報告を受けまして、その内容を確認するという業務を分担していたわけでございます。

◎議長（山中金治郎君） 小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） 報告を受けたというのはどこからの報告なんでしょ

うか。この文を読む限りでは、もっと財政課長が主体となって管理をするというふうなふうに私は見るんですが、その点いかがでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 基金に属します現金につきましの管理といいたまいますか、保管は収入役の権限でございます。財政課長としての役割といたしましては、市の財産でございます財政調整基金を初め、各種の基金の現状を把握するのがその役割でございます。

◎議長（山中金治郎君） 小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） じゃ、それはその程度にとどめておきます。

再度確認いたしますと、この山田収入役がお買いになった株についてはそうじゃなくて、複数の人間がその目的は別にしても、事務処理等についてはかわっており、その現金の流れ等については承知していたと、このように解釈してよろしいんですね。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 結構でございます。

◎議長（山中金治郎君） 小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） それでは、再発防止チェック体制強化策、この点についてお尋ねします。

ただいま市長さんからそれらしいお話があったんですが、これは非常に何か漠然としておりまして、もう一つははっきりしません。といいますのは、問題が発生して以来かなりの時間が経過しているわけですし、その間の管理体制は従来どおりなのか、あるいはどのようなことをなされたのか、そういうことが今一番私どもが関心を持っているところでございます。お答えいただきたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 基金に属する現金の保管におきまして、財政課において毎月現金残高の確認を行い、基金の運用から生じます収益につきましても、財政課におきまして確認し、事務処理をしているところでございます。

基金の管理につきましては、以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） 今話は基金のところに絞られておりますけれども、これは後ほどの問題と関係してくると思いますが、言われているところの市役所の体質といいますか、縦割りの年功序列、公務員の体制、監査報告にも渡辺元収入役が証言しておりますように、先輩のために悪いことは言えなかったと、このようなこともこれははっきりと書いてあるわけでして、こういった問題についても、ただ計数の、お金の管理だけとは — あわせてこのようなことにもやはり対応していかなくちゃいけないと思いますが、この点はどうのようなお考えでいらっしゃいますか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 市長の答弁にございました公務員倫理の確立という点でございますけれども、公務員には全体の奉仕者としたしまして市民の負託を受け、法令の規定に従い事務を遂行することが求められているわけでございます。元収入役は、結果的には市民の利益になれば許されると、そのように考えまして法令に違反した株の購入を行ったものでありますが、また関係職員は上司の命令に従い、あるいは前例を踏襲して不適当であると認識しながらも事務処理を行ってきたものでございます。このことは、市の組織の一員であることを意識する余り、市民の負託を受け、法令の規定に従うという公務員の基本的な心構えが希薄になっていたことから生じたものではないかと考えております。

これに対しまして、まず市役所の職員全員に公務員としての立場を再認識させる、具体的に言いますと管理監督の立場にある職員が常に全体の奉仕者であるということを念頭に置きながら業務を管理し、また所属職員を指導していくということが1つ挙げられると思います。また、地方自治制度あるいは地方公務員制度等に関する研修を充実させまして、地方自治を支える地方公務員の心構え、あるべき姿ということについての意識の高揚に努めてまいりたいと思っております。

さらに、今回のNTT株購入に関連いたしました職員に対して厳正な処分

を行うことによりまして、改めて全職員に公務員としての立場を認識させるというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） そのような御決意であれば、ぜひとも早い時期に強化をしていただきまして、くれぐれも再発、このような問題が起きないようによろしくお願いしたいと思います。

最後に、市長さんにお伺いしますが、どうも市長さんも歯切れが悪いといえますか、欠損金の処分でございますが、先ほど同僚からも質問があり、2回ほどお答えいただいたんですが、すべてことしの会計年度の欠損金として処分するというようなことで伺っておりますが、また先ほど市長から謝意を述べる、また御自分の処分も検討なさっているというようなお言葉ありまして、これは私ども真摯に受けとめて、それなりにまた敬意を表するものでございますが、ただ先ほどから私が申し上げましたように、言葉だけじゃなくて、要するに実際の行動として市民が納得するようなものを早い時期に出すというのが今執行部に課せられている問題じゃないかと思うんです。

昔3点セットというような言葉があったのを――あるいは御存じかどうかわかりませんけれども、要するに本来の問題を解決するのには、まず当事者の徹底追及、損害賠償の確定等、さらには今申し上げました再発防止の問題、さらに実際の欠損金をどう処分するんだ、この3つをそろえて市民の合意を得ると、こういうことでないとなかなかこれは市民の世論といいますか、合意は得られない。そうしている間に、いろいろなこれに対する市民の不満、批判がいろんな形でそれぞれ持ってくる、こういうことなんで、市長さん、どうかこの点ひとつ何か御自分がどうするということとあわせまして、館山市を――その市が1つの会社とすれば、会社の欠損金は会社で埋めるというのが、これひとつ私ども民間人としての常識といいますか、通例でございます。そういう見地から、後ほど触れますけれども、行政改革の問題、人員削減とか目に見えるわかりやすい形での欠損、間接的な軽減策――損失金の軽減策、これがひとつ欲しいわけでございますが、いかがでございましょうか。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） この問題につきまして、先ほどお話ししましたように、激しい憤りを持っている一人でございますけれども、といいますのは原点がなっちゃいない。公務員のスタートのところで公金で株を買うなんていうのは絶対に許されませんし、あってはならぬ問題で、しかもそれが当市役所の大幹部であるというのはもう論外でございます。そういうところにあるわけでございます。それが大きな損害を与えた。その損害は、当然のこととして本人に返済してもらふべきものでございますけれども、そこに出てまいりましたのが大赦令あるいは免責条例とか、こういうのが出てまいりました。そういうものでは免除せざるを得ないと、まことに本当に悔しくて残念でございますけれども、厳とした法令の決まりがあるということでございます。

2人の任意弁済に関しましても、こっちから要求——条文、法令に従いますと要求できるもんじゃなくて本人からの任意の——まことに申しわけなかったという、その心情のあらわれとして、しかも家屋敷を処分します、ここまで言っているのだ。これは、受ける方法としましては寄附として受けるしか方法はないということでございますので、任意の寄附として受けるということでございます。

また、先ほど来の御意見の中に、こういう体質が市役所の中に蔓延しているんじゃないかというような誤解を受けているんじゃないか、これが一番残念なことなんでございまして、これは特異な——本当にあのバブルの頂点間際の異常な行為であったんじゃないかとは思うんでございますけれども、こういう体質が蔓延しているということ絶対ございませんので、またこれが——収入役のあの行為が何人かに相談して株やるかというようなことも一切ございません。自分で決めて自分で手を打って、あとこういう書類をつくるだけを命令している、こういう状況でございます。そのところははっきりしておきたいと思います。

ただ、この処理につきまして、今の御意見のとおりだったのです。これは厳しく私自身が受けとめざるを得ません。また、今の市の幹部はもちろんのこと、全市の職員に対しまして人間として、また公務員としての基礎を失っ



た行為、再発どころじゃなくて絶対にあってはならぬ行為だと、これを再認識するとともに、できるだけ経費の削減とか、そういうできる限りの手を打って、そして市民の皆さんの御了解を得るしか方法ないかなと思っていますが、これからまたいろいろ御意見を拝聴しながら頑張ってまいりたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） ただいま市長さんから大変力強いお話を伺いまして、私どもも市長さんの手腕にお任せするといえますか、それを期待しておりますので、ぜひともひとつ市民の納得いく形での処分を重ねてお願い申し上げます。

次に、行革の関係で二、三お伺いしたいと思いますが、進捗状況につきましては市長さんの方から大変数値を交えての報告をいただけるということでございますので、これで結構でございます。ひとつよろしく願いいたします。

人事制度の見直しにつきましては、ただいま市長さんのお話も出ましており、私どもも市のすべてが問題があると、そういうふうなことは決して思っておりません。ただ、この監査報告とかいろいろ聞くところによると何人かの方がそれ違法を知っていながら話さなかったために10年間も外に出なかったし、また早い時期に表に出しておけば、もっと軽い損失金で済んだというようなことが状況的に私どもには入ってきますので、その点について私どもとしましては何とかしなくちゃいかぬという観点から申し上げることでございまして、市の職員の方個人がどうのこうのということは決して思っておりません。言うなれば、制度的に少し制度疲労かなと、その点の見直しを私はこの人事制度の見直しということで申し上げたわけでございますので、ただ残念なことに課長立候補制とか職場公募、また試験制度のお考えはないというお話でございましたが、やはりこれも競争原理がないと、なかなか組織というものは死んでしましまして活性化がないものですから、試験の方法、ペーパーテストとかそういうことで何らかの — 例えばよくわかりませんが、課長さんになるとときには幹部でつくる面接の試験があるとか、最低

そのようなことでもひとつお考え願いたいと考えております。

それから、ことしの採用の件でございますが、大綱の精神といいますか、むしろざっくりばらんに言いますと、やはりNTTの問題を抜いては語れないんでございまして、こういった市の財政に大きな穴があきそうなときに、そういうときに人をふやすというのはなかなか市民からの理解は得がたいと。そういう観点からの私の提言でもございますので、その点はひとつ十分御検討のほどをお願いいたします。

いかがですか、市長さん。今年度の採用見直すというようなお考えございませんでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） それでは、今年度の採用予定につきまして——平成9年4月ということでございますが、採用予定につきまして御説明させていただきますと思います。

事業量の増大等を、あるいは退職者の状況を考えまして採用計画を立てたわけでございますけれども、一般行政職3人でございます。それから、地域保健法等の関連がございまして、保健婦2名、それから土木技術者2名、それから下水道事業に関連いたしまして、電気と化学それぞれ1名ずつの採用を予定しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 大事な問題でございますが、市の職員につきまして、は数年前から行革の大なたを振るってしまして、組織の変更、それから職員の削減、これやっております、ここ2年ほど減らしております。本年9人という形で出ましたけれども、これはこの時代、保健婦がどうしても福祉のために必要である……それから土木が2人とか一般職員の方は3人でございました。希望者が九十何人おります。これは3人ふやすというわけじゃございませんので、退職者の補充ということでございます。御了解賜りたいんです。スリムにスリムにということで頑張っておりますけれども、ただいま住民の要求、要望が強まる——非常に複雑になっておりますので、それに対応するた

めに精いっぱいやっていますけれども、御了解賜りたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） 市長の今お答えで了解はしましたが、ただお言葉を返すようですが、行革大綱の中には減員補充は原則としてないと、配置転換等、要するに内部からの異動で賄うと、このように書かれておりますので、その点もひとつ忘れないでお願いしたいと思います。

最後に、3番目のウェルネスについて1点だけお伺いします。やはりこの問題は今後とも取り組み、いわゆる市がどれだけこれに対して力を入れて、しかも実現に向けて向かっていくかと、この姿勢にあるかと思います。私も、昨年この問題で市のお考えを聞いたわけですが、要するにただいま館山市の方は市長さん初め皆さんの御努力によりまして、上下水道、駅前問題、ほぼ間もなく完成工事も終わると。そういった中で、この問題だけが取り残されているような感じでございますので、もうこれにすべて今後は力を一本にさせていただいて、ウェルネスリゾートタウンと名乗るのであれば、中身もリゾートタウンというものがないと、やはりおかしいと思うし、また今後のいわゆる流動人口というんですか、そういったものの増加対策も含めまして大切なことと思うんでございます。

先ほどの民間を入れての組織づくり、この点についてもう少し詳しく御説明をいただければと思いますが、いかがでございしますか。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 進出企業の誘導というふうなことから、今後あらゆる企業、大手企業等を中心にいたしまして、あるいは銀行等も含めまして検討委員会というものをつくりまして、そこで問題点の整理、課題の整理、こういったものを詰めまして、事業化に向けて推進をしまいたい、こういうことであります。

◎議長（山中金治郎君） 小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） 部長さん、大体今そういうことであろうと思うんですが、例えば何社ぐらいとか、その規模、スタートの時期いかがでございしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 寺嶋企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 企業の数でございますけれども、現時点では先ほどの御質問にもございましたけれども、問い合わせあるいは照会等、何らかの接触をしてきている企業が22社ほどあるわけでございますけれども、そういったものも含めまして広くこの事業に — この計画に関心を持っている企業を募りまして、委員会を設置したいというふうな考えでおります。この委員会の設置につきましては、今年度内を目標に設置したいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） わかりました。ぜひ実現に向けて力強いひとつ活動をお願いしたいと思っています。

最後に、これは学校給食の問題は、ちょっと広域の関係で本来この場での質問はどうかと思うんですが、市長さんが理事長というお立場なので、参考までにお伺いしているわけですが、O 157の問題で最近いわゆるシステムに問題があるんだというようなことを言われております。館山の場合には一括購入、センター処理方式と、こういうことで運営がされておりました、新聞等の論評を見ますと、最も危いシステムだと。要するに管理が大変というふうなことから、自校購入、自校調理ですか、こんな動きも検討されているというようなことを聞くわけですが、これについてはいかがお考えなんでしょうか。これはさっきの行革の問題とも絡むんですが、またもとに戻るといふようなことは行革にはやはり相反することなので、その点での参考御意見としてお伺いしたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 学校給食センターは、御案内のとおり館山と富浦と三芳で一部事務組合で組織しております。それで運営しています。

特に今回のO 157は大きな大問題が3つあるわけでございます。御案内のとおり、原因がわからない、この伝染経路がわからない、治療法がわからない、こういう病気に向かっていこうというんですから大変でございますけれ

ども、今センター関係の関係者、必ず熱を加えて出しておるとか、消毒を徹底するとか、こういう細かな指導をし、そして精いっぱいやっていただいていますけれども、今の段階でこの給食センター業務を各学校単独に御意見のようなふうに切りかえるとか、それからこれちょっとできかねるんじゃないかと思うんです。

また、最初の御意見の中にございました外部委託というものでございますけれども、今までの仕方と従業員その他の問題もございますので、慎重に対処して検討していかなければいけない問題で、きょうここで御答弁申し上げるわけにはいきません。個人的な意見もちょっと出すわけにはまいりませんので、御了解賜りたいと思います。よろしくお願いします。

◎議長（山中金治郎君） 小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） ありがとうございます。終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で4番議員小幡一宏さんの質問を終わります。

次に、14番議員永井龍平さん。御登壇願います。

（14番議員永井龍平君登壇）

◎14番（永井龍平君） 既に通告してございます4点について質問をいたします。私で5人目の登壇でございます。質問が重なると思います。

まず、元収入役の株購入問題とその監査報告についてであります。この問題につきましては、去る5月に全員協議会で市より説明を受けて以来、6月議会において論議を尽くし、すべて監査報告待ちということになり今日に至ったのであります。この問題については、市民や私たちもどのような報告になるのか、今か今かと待っていたのであります。この問題は、館山市にとっても前代未聞の大不祥事であり、マスコミも全国に報道をして一躍館山市も有名になったほどであります。市民からも市の対応は甘いとの批判も相次ぎました。私たちも市民とともに納得のいく結果を期待していたのであります。しかし案に相違してすべての人々を裏切る結果になってしまったのであります。

その監査報告では、山田、渡辺元収入役が責任を負うべく、損害賠償額合わせて4億 238万 4,299円のN T T株購入行為は、昭和64年1月7日以前で

あるために、N T T株購入行為が犯罪に当たるとまでは言えないことから、昭和天皇崩御に伴う職員の懲戒免除及び職員の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例、館山市条例第3号の規定により、両者、元収入役の損害賠償責任は消滅していると、このような監査報告であったのであります。まさに、青天のへきれき、全協でこの報告を聞いたときには、瞬間、全議員が絶句したものであります。

さて、前置きはこの辺にして質問に入ります。まず第1点として、監査報告の内容についての市長の見解はいかにということであります。このことに関しては、監査報告を尊重するという市長の立場もあろうかと思いますが、ここはひとつ一人の市民、一個の人間としてどのように考えておりますか、どのような見解をお持ちですかという質問でございます。といいますのは、この問題に関して人間としての市長の――市民の皆さんは耳をそばだてていると思うのであります。きょうの傍聴席にも、もういっぱい傍聴の方々が見えております。市長がいろいろなものを取り払った一個の人間としてどのように考えておられるのか、お答えをお願いしたいと思います。

また、監査報告は100%十分な答えを出していると思うかどうか、あわせてお聞きいたします。

第2点であります。任意弁済についての市長の見解はどうかという質問です。私は、この件の解決への取り組み方にはいろいろな形があろうかと考えます。市長は、某新聞でコメントを出しております。「この弁済行為に対しては、これで責任を果たしたとはとても言えない。市民感情としても、私自身としても許しがたいが、2人の示した誠意として受けとめている。これ以上の損害回復が法的に不可能なことはまことに残念である」というコメントであります。また一方では、市長は「これで責任を果たしたとはとても言えない。市民の感情も到底許してはいないであろう。私も個人の考え方として許しがたいと思っている」とも述べております。ということは、市長は「市民は到底許していない」という見解に立っていると思われれます。その市長が、今理解している市民感情を踏まえて、いま一度市長の任意弁済に対する見解をお伺いいたします。

第3点であります。この件に関与している職員の処分についてであります。また、市長の監督不行き届きについてはどうなるのかという質問であります。認識していながらこれを隠していたという行為は悪質と言われてもいたし方ないと思うのであります。この問題は、性質上もっと早く発覚していれば傷が浅く済んだということから見れば、知りながら隠していた罪は大変に深いわけであります。この処分については、市長は早い時期に明確にする責任があると思います。その市長の腹づもりをお聞かせください。あわせて、市長の監督責任についてはどうか、お答えください。

第4点目であります。この事件は、館山市史の汚点として残る大不祥事でございます。また、これからこれに類する事件の再発防止のために、既に市長としてはこの点はこのように改善しよう、またこのような機構の改革しようというような考えを持っていると思うのでありますが、市長の再発防止のためのお考えをお尋ねいたします。

最後に、市民に尊敬され、信頼される職員の資質の向上、人格の形成など、これからの職員の教育に関する御所見を承りたいと思うわけでございます。この件に関しては、私は2つのポイントを考えます。1つは、市民のとうとい汗による血税への金銭感覚が薄れているということでありまして。血税を自分の金のような感覚で考えるところに、その金銭感覚が問題なのであります。

2つ目としては、職員としての襟度ある人格の形成であります。これらの市民に尊敬され、信頼される職員の教育についてのお考えをお聞かせください。

以上、5点にわたり質問いたします。

次に、高齢者働く会のシルバー人材センターへの移行はどうなっているのか質問をいたします。生きがいのある豊かな高齢化社会を築く一環として、高齢者の就業のニーズに対応するために全国でシルバー人材センターが発足して21年がたちました。今や会員数は全国で33万人を超えたとされておりまして。シルバー人材センターは、働くことを通じて社会参加と生きがいの充実を図ることを目的に、高齢者の就業意欲にこたえる事業として昭和50年に東京都江戸川区でスタートしたのが始まりで、55年には国の補助制度が創設

され、60年には高齢者の雇用の安定に関する法律が制定されまして、本格的な国の補助事業として取り組まれ、全国各地にこの人材センターが設立していったのであります。各自治体も強力にバックアップをして、地域に根差した積極的な活動によって、本年2月末までに全国で700の自治体、団体の数にも上り、その会員数、仕事の受注件数、契約金額、就業率なども年々に増加傾向にあると言われております。

こうした状況の中で、全国シルバー人材センター協会では21世紀に向けての事業の発展と拡充を図るために、次の指針、目標をまとめました。それは、21世紀初頭に会員を100万人に、そして多様な就業の確保を目指す、そして会員による自主運営の推進を図る、就業機会の提供機能の拡充などであります。また、最近の労働省の調査でも、定年後でも働きたいと考えている40代、50代のサラリーマンで70%以上にも上り、これからの高齢化社会において老年寄りが生きがいを持って働ける場の確保はますます重要な課題になってきているのであります。本市でも少子化が進み、既に20%を超える高齢化社会になっております。そのために、高齢者の働く場の確保とその労働力をどのように生かしていくのかが大きな緊急な課題であると私は強く訴えたいのであります。私は、この問題に対して何度か質問しておりますが、一向に進展の様子が見られません。この働く会もシルバー人材センターに移行する準備期間5年の育成期間も既に過ぎております。現在働く会のメンバーは74名のようではありますが、私は市の人材センター設立への意欲が、そのバックアップがどうも消極的だと思えてならないのであります。PRにしても、市の広報の隅に申しわけなさそうに載っているぐらいだと認識しております。市では、今後のシルバー人材センターの設立に向けての考え方、そして具体的にどのような働きをしてまいるのか、お尋ねをいたします。

第3に、市民の健康づくりのためのウォーキングの進めとウォーキングロードの建設についてお伺いいたします。現在は日本人の多くの人が飽食と運動不足のため、肥満等による心臓病や高血圧などの循環器系の成人病になる危険性を持っております。危険性を持っているというよりも、既に多くの人が成人病になっております。そして、自分が運動不足だとわかっていながら、



何の運動も実行できずに毎日を過ごしている方がたくさん見られます。

それでは、なぜわかっていながら実行できないのか、それは運動することが何か新しいことをするかのように感じられてとてもおっくうになってしまいうようであります。だれでも気楽に毎日続けられて、しかも安全性が高く効果的な運動を考えて指導をして、普及させなければならないと考えるものでございます。これにはさまざまな運動が考えられますが、私は最も身近でだれでも少し工夫をすればどこでも実行のできるウォーキングの勧めを提唱したいと考えているものです。

かつては、心臓病の多かったアメリカでウォーキングについての研究がありました。それは、40歳から57歳までの中年男性について、1回に40分間のウォーキングを週に4回ずつ20週間、つまり5カ月ほど続ける実験が行われたそうでございます。その結果、このウォーキングによって体のいろいろな機能が改善されたという結果が発表されました。その効果といたしますと、1回の呼吸で吸い込む空気の量が毎分体重1キログラム当たり30ミリリットルから1分間に30%も増加をしたそうでございます。これは、その人の体力の持久力の向上を示すものでございます。また、体の各部の皮下脂肪の合計が135ミリメートルもあった人が120ミリメートル、11%も減少して、ぜい肉がとれたと、このように端的な効果があらわれたと言っております。

さて、ここでこのウォーキングを医学的な見地から考えてみますと、まず肥満による成人病を防ぐという大きな効果があります。中性脂肪、コレステロールの数値を減らし、脳血管障害、動脈硬化指数も改善することが可能なのであります。また、肝機能を丈夫にして血圧を安定させて、現代人の成人病の最大の因子となるストレスの解消に大きな役割を果たします。最近朝晩に多くのウォーキングを既に実行を始めている方もたくさんおります。また、これから始めようとしている人もおります。そして、生活が多忙で関心を持たない人もおります。館山市も館山市民憲章の中で健康都市宣言をしているわけですから、市民の健康づくりを市の行政がリードする意味で、できる限りの施策を講じてやったらどうかと思います。自分でウォーキングを始めている人には、長続きをするように行政で支えてやり、これから始めようとし

ている人にはその合理的な方法を教えてやり、関心を持たない人には啓発していくというように、いろいろな人に応じてできる施策があると考えます。

そこで、質問に入ります。ウォーキングを始めている人には安全なコースを全市的に考えつくってあげる、特に今施策として進められているビーチ利用促進モデル事業の中で、このウォーキングロードをあわせてつくれないものかどうか。また、これから始めようとしている人のためには、どのように始めたらよいのか、ウォーキングブックなどの提供は考えられないのか。そして、まだ関心のない人のために一日も早く始められるように、啓発するチラシを配布してやるなどの行政でできることはたくさんあると思います。このウォーキング施策は一日でも早く始めることが一日でも早い健康づくりに近づくことになると思います。この点、市当局も十分に考慮をされて取り組んでいただきたいと考えます。よろしくお願いいたします。

次に、病原性大腸菌O 157の予防とその対策について御質問いたします。病原性大腸菌O 157が日本じゅうで猛威を振るい、全国民を恐怖に陥れました。本年5月岡山県で発生して以来、わずか3カ月間のうちに被害は秋田県を除く46都道府県に及び、現在発症者は全国で9,000人を上回り、死者は11人にも上りました。この間、政府の打つ手はことごとく後手に回り、大被害を招いたことが批判的となっております。大阪堺市で発生した集団食中毒は6,000人を超す患者を出すという史上最悪の事態となりました。

O 157は、1982年に米国で発生した集団感染で、初めて検出して以来、同国では毎年2万人が感染して250人にも上る死亡者を出していると言われております。

日本でも、90年に埼玉県集団食中毒以来、92年の佐賀県、93年の東京都、94年の奈良県など毎年のように各地でこの中毒が発生しており、こうした国内外の事例はこの大流行の前兆だったと言えるでありましょう。しかし、政府、自治体の構え甘く、危機意識は薄かったと言わざるを得ません。そうしたすきをねらうかのように、大量発生したO 157による食中毒被害なのであります。

時間がございません、飛ばします。そこで、お伺いいたします。当市では、

その予防とその対策はどのようなことを実施してきましたか、そして市での感染者はいかがでありますか。生鮮、生魚、生野菜等を扱っている各事業者への影響はいかがでしょうか。そして、市民の関心とその検査状況はどうでしょうか。学校給食の安全管理は万全にしておりますか、お尋ねをいたします。いずれにいたしましても、このO 157の問題はその感染源、感染経路、全くの不明であります。いつどこでこのO 157による集団食中毒が発生するやもしれません。これからも十分すぎるほどの事前の予防とその対策をしなければならぬと考えますので、以上の質問に対してお答えをお願いいたします。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの永井議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、元収入役の株購入問題と監査報告についての第1は、市長の個人的な見解を問うと、こういう御質問でございました。今回の問題の根底にあるものは、元収入役に公務員としての倫理観が欠如していたことにあると思います。個人として、2人の元収入役の行為をまことに許しがたいことであると思っております。私が監査をお願いいたしました目的は、1つは事実をありのままにすべてを市民に明らかにすること、もう一つは館山市民の損害を回復すること、この2つを目指して誠心誠意努力してきたところでございます。4カ月間にわたる監査により、事実は明らかにできました。しかしながら、市民への損害回復の道が今回のような結果になりまして、まことに残念至極といえますか、痛恨のきわみでございます。このことは、市民の皆さんも同じであると考えます。今回の監査につきまして、監査委員の方々には非常にお手数かけまして、監査結果については詳細にわたり検討されていると認識するものでございます。

第2点目、任意弁済についての御質問でありますが、去る8月30日、2人の元収入役から任意弁済の申し込みございました。1人は不動産によるもので、もう1人は現金によるものでございます。これによりまして、元収入役2人が責任を果たしたとは到底言えませんし、市民感情としても、私自身

としても許しがたいことではございますが、家屋敷を手放し、あるいは老後の蓄えをもって弁済する、住みなれた館山を去る、このことは2人の示した誠意と受けとめております。これ以上の損害回復は法的にできないこと、まことに残念でございます。

第3点目、処分についての御質問でございますが、襟を正す、けじめをつけるという意味で、私自身含めまして、三役の厳正な処分をする覚悟でございまして、そのための条例を今会期中に提出いたしたいと考えております。一般職に対しましても、これは厳正に行う予定でございます。

次に、第4点目、再発防止策についての御質問でございますが、鈴木順子議員、小幡議員にお答えいたしましたとおり、人事面及び事務上のシステムの面から、また基盤になります公務員のあり方からして、しっかり再認識する実効性のある体制を強化してまいります。

第5点目の公金に対します職員の意識についての御質問でございますが、今回の事件につきましては元収入役のお金の運用について違法な行為がなされたものでございまして、最も確実かつ有利な運用と、そのもとを失ったものでございまして、市民の税金を扱う公務員としての倫理観の確立に努力していかなければいけないと認識しているわけでございます。

次に、大きな第2、高齢者働く会のシルバー人材センターへの移行についての御質問でございますが、高齢者働く会は自主的な活動により運営されている団体でございますので、その自主性を尊重しながら、市といたしましても高齢者働く会のPRを引き続き行いまして、会員の確保及び職種の開拓等を援助して、シルバー人材センターへの移行に努めてまいりたいと考えております。

大きな第3、市民の健康づくりのためのウォーキングの勧めとウォーキングロードの建設についての御質問でございますが、ウォーキングの勧めといたしましては各種健康相談、健康教育等におきまして、チラシあるいはパンフレットにより実践指導を行うとともに、万歩計の貸し出しや保健推進員活動によるウォーキングの普及推進に努めております。

また、ビーチ利用促進モデル事業の中でウォーキングロードをつくれない

かとの御質問でございますが、ただいま千葉県により進められております事業の中で、幅員約4メートルのプロムナードが計画されておりますので、このプロムナードがウォーキングロードとして利用できるものかと考えております。

次に、大きな第4、病原性大腸菌O 157の予防とその対策についての御質問でございますが、館山市といたしましては健康管理課内に食中毒相談窓口を設置し、市民の不安解消等に努めているところでございます。また、館山保健所と連携を図りながら、保健推進員によりますチラシの配布、市広報、回覧によるPR、市民課・中央公民館の各窓口へのチラシ配置や健康教育等の場において予防のPRに努めてまいりました。

なお、患者の発生はございません。

次に、鮮魚、野菜等を扱っております各事業者への影響についての御質問でございますが、館山商工会議所が8月に実施した抽出調査によりますと、鮮魚、野菜等を扱う小売業、飲食業等は前年同月に比較して売り上げが減少しておるとのことでございますが、この原因は明らかではないと伺っております。

次に、館山保健所におけるO 157にかかわる検査状況につきまして、9月6日現在で検便 122件、うち一般住民18件、井戸水 101件と伺っております。

次に、学校給食の安全管理につきましては、鈴木順子議員にお答えいたしましたとおり、万全を期して活動しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 14番議員永井さん。

◎14番（永井龍平君） 再質問の前にお断りしておきます。

私、大変法律が苦手でございます。この問題につきましては、少し勉強いたしました、間違い等の発言もあろうかと思えます。お許してください。

まず、監査報告の内容についてお尋ねをいたしたいと思えます。第1、取引行為の効果が問題と考えるものであります。株の購入の効果が館山市に帰属するかどうか、帰属するとしたらいつの時点で帰属するのか、つまりこのNTT株をだれが買ってだれが売却したのかを明確にしなければならない、

このように思うわけでございます。なぜ重要なのかと申しますと、山田俊康さん個人が買ったということになりますと、この免責はどうなるのか、除外されるんではないか。

それで、まず確認の意味でお聞きいたします。この報告書では、2人の収入役の行為は地方自治法第243条の2の第1項で所定の現金の亡失に当たるとあります。この所定の現金の亡失とは、市の金庫に安全に保管されていたお金が離れる、なくなる、これが定義だと思います。

また、例えば金庫等に保管されていたお金、現金が管理を怠ったために盗難、紛失してお金がなくなったというようなことを現金の亡失に当たると私は理解いたしますが、それでよろしいのかどうか、質問いたします。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいまの金庫から現金が盗まれた場合は亡失かという御質問でございますが、亡失に当たるというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） 監査報告では、現金の保管方法として適当でない旨の認識を持ちながら、N T T株を購入してみずからが保管する現金を購入代金として支出をした、これは所定の現金の亡失の行為であります。であるならば、権限外の無権代理で買ったものであれば、当然その株の持ち主は収入役自身の株になろうかと私は考えます。

これは適切な例かどうか分かりませんが、何物かがその金庫からその現金を盗んで、その金でN T T株を買ったとしますと、その株はその何物かの株であって市の株ではないということになります。それはおかしいことに権限外であり、亡失の行為で買った株が市の追認によって市が初めから買った形となってしまっている。しかも、売却時では売買手数料は市が払った。こうなれば、収入役の賠償責任の考え方はどうなりますか、お聞きいたします。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいまの御質問でございますが、今回のN T Tの株の購入につきましては、市の収入役といたしまして定められた手続に従い、市の指定金融機関でございます千葉銀行の支店の収入役口座から証券

会社にお金が払い込まれたものでございます。したがって、正規の手続で収入役が株を購入したものでございまして、その所有権は市に帰属するというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） 正規の手続でということでありませうけれども、私はどうもそれがちょっとわかりません。確かにそうなんですけれども、間違い、悪いことをして、そして収入役が勝手に金庫から金を——現金を支出して、そして買った。これ自体ちょっと正規じゃない、このように考えますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいま申し上げましたのは、株の購入のための公金の支出、それから証券会社の支払いのルートに問題がなかったということございまして、現金の保管方法といたしまして、確実に保管すると定められました地方自治法、市の財政調整基金の規定に違反するということは変わりはありません。株の購入に公金を支出いたしましたことは違法ですが、その行為そのものは無効ではないということでございます。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） それでは、伺います。

次に、監査報告では賠償責任が株購入時に発生したとしております。株購入時に発生した——債務が発生した。なぜ株式を売却した時点で発生するという考えはとらないのか。私は、賠償責任が購入時だと判断するのであれば、賠償額の算定はどのように計算するのか。もし計算ができるのであれば、その時点での賠償額は幾らになるのか、はっきりしない賠償責任はとても考えられないと思う。

私は思うに、賠償額の算定は株式を売却して初めてその計算幾らで売った、今回80万で売ったことははっきりした賠償額が出てくるわけなんです。売らない、いつ大上がりするのか、また暴落するのか、横ばいなのかわからないわけです。ですから、株式を売却して初めてその計算ができるわけで、購入時での賠償額の判定ができないと考えます。この点もあわせてお尋ねをいた

します。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 損害の発生時点とその損害額の算定でございますけれども、午前中の御質問でもお答えいたしましたとおり、現金の亡失というのは株を買って持っていたために、徐々に亡失したものという考えではございません。株を購入したことが、すなわち現金の亡失であると。したがって、1億円で株を購入いたしましたら、その購入いたしました時点で損害額は1億円ということで、これは最高裁判例等の考え方から来ておりますが、そのように考えるものでございます。

それでは、損害額の確定はいつの時点かということでございますけれども、損害額の確定につきましては株を処分いたしまして、それは損害額の一部が回復されたということでございます。したがって、その株を買ったときに失われた、亡失いたしました現金、それから回復されました現金、その相殺、もちろんその間の経過利息というようなものがございすけれども、それらを考慮いたしました結果、賠償額が約4億円ということで確定したものでございます。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） 損害額の回復という今お話がございました。進めます。

また、このNTT株、結果論になると思いますが、私としてはちょっと大事だなと思います。163.2株、8月15日に80万円で売った、売却したようであります。この時点の株価の動向見ますと、8月13日の高値が77万8,000円、安値が75万8,000円、出来高が4,041株あります。8月14日、高値が82万3,000円、安値が79万5,000円、出来高1万6,355株。8月15日になりますと、高値が84万1,000円、安値が82万3,000円、出来高がふえまして1万6,742株。8月16日になりますと、高値82万4,000円、安値が81万8,000円、ぐっと出来高が下がりました。4,234。8月の15日に売ったということなんですけれども、これ間違いはないですか。これここの値動きではちょっと考えられませんが、いつお売りになったんですか。



◎議長（山中金治郎君） 収入役。

◎収入役（永野 修君） 端株の関係がございますけれども、8月の14日に  
対応、売っております。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） そうすると、80万で売れたわけですね、これ見ま  
すと。

問題、ちょっとこれだけの80万もする株、163、1億3,000万ですか、慎重にやってもらえば、もうちょっともうかったのではないか。8月14日の時点で、ある外資系証券会社のレポートが出たんです。通信関連株、特にNTT株は近い将来100万になるだろうなんて伝えられた。それで、このような大きな値動きになっているんです。高値84万1,000円で売っていれば、80万よりも約700万ももうかったんです。株の問題で下がる下がるばかりやっていますから。それで、同じく安値の82万3,000円で売っていると、約370万の利益が出たんです。私は結果論ですよ、あくまでも。でも、もう少し慎重にやってもらえれば、いわゆる市民の血税が少しでありますけれども、浮いたんじゃないかなと、このように思うんですね、この点いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 収入役。

◎収入役（永野 修君） 私が市長から株を売却するようにと言われましたのは、7月の17日に売却、早急に換金しろと、7月の17日でございます。市長からの文書でもって命令を受けて売買をすることになったわけですが、そのときの株価は今記憶にございますが、79万3,000円がたしか高値だったと思います。その後どんどん、どんどん株価が下がりまして、8月の12日には75万9,000円というふうな低い額になったわけでありまして。8月の14日に売却したわけでございますけれども、このことについては証券会社とにかく少なくとも80万台で売りたいということでもって依頼をしておりました。朝証券取引所が開設になりまして、すごく高くなるということもあって、実際には80万のところのうちの方へ電話が来たわけでございます。その後9時半ごろに80万5,000円まで行きまして、そこでこれはいいということでもって一応指し値80万4,000円ということでしたわけでございます。

ところが、これ刻々電話連絡していたんですけれども、最終的には今度79万台になっちゃった。したがって、私会計課長から刻々といういろいろ情報得たわけなんですけれども、その下がった段階でもってもう既に8月14日ですから、これは仕方がないなということでもって80万の指し値をいたしまして、判断のよしあしはお任せいたしますけれども、結果的には80万で売却したと、こういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） 結果論でこれを聞いてもしようがないんですけれども、先ほど私述べましたけれども、血税でございます。預かっているお金を人の金だと思って軽々扱わない。だから、もうちょっとしっかりと情報なり、あるいはいろんなやったと思いますけれども、これだけの差が出たということ指摘しておきたかった、こういうことでございます。

次に、処分についてであります。現代の風潮として、背任、横領の事件が毎日のように起きております。最近では、大手の住友商事のイギリス駐在の幹部の銅取引の巨額な穴をあけた事件、高島屋デパートの暴力団の総会屋に8,000万円献金の事件あるいは最近の三和銀行のある支店長が5億円余りのいわゆる背任、横領した、事件はこのように毎日新聞紙上にぎわしています。そして、これらの企業の社長さんは何らかの責任をとっております。

ここで、市長さんは御答弁の中でまことに残念で許しがたいと述べて、先ほど来非常に悔しい思いをしておられます。私は大変に気の毒とは思いますが、市長自身も市民の納得のいく——覚悟の決断を促すものでございます。市長さん、この点についていかがでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 先ほど来お答えしていますとおり、今回の不祥事、公務員としての初歩的な問題でございますし、決まったことが条例に決まっているとおりやれなかった、しかもこれが市の最高幹部の行った行為で、時は移ってはおりますけれども、現在の三役としまして私を含め、これは襟を正し、そしてこんなことは絶対にあってはならぬ、二度と起こらないことの誓いをあらわすとともに、市の職員倫理の徹底を促すべきであると、こう考

えていまして、今議会にその処分を提案いたしたいと、こう考えています。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） 次に進みます。

山田さんがN T T株購入の発覚を恐れて、名義書きかえをしなければ配当金を受けられないことを十分に認識をしていました。そして、この名義の書きかえを意図的にしないで配当金を受領しなかった点、重要な問題と考えます。このために市の損害を拡大させたものであります。これは明らかに背任罪の適用になると考えますけれども、いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 背任罪の成立いたします条件として、自己もしくは第三者の利益を図る目的、または市に損害を与える目的が要件として必要になってくるわけでございます。元収入役の株の購入はこの目的ではございませんもので、市民の利益を図る目的ということでございますので、背任罪には当たらないというふうに考えているところでございます。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） 背任罪、刑法の第247条でございますけれども、今説明ありました——他人のため、いわゆる自己もしくは第三者の利益を図り、または本人に損害を加える目的によって、その任務に背きたる行為をなして本人に財産上の損害を加える、懲役5年以下とありますけれども、報告書に山田収入役の供述によると、山田収入役はN T T株を購入して市民に利益を上げさせたい、このような気持ちで株を購入したと報告があります。そして、また渡辺収入役がN T T株を買うことにより、さらに含み損が増大するかもしれないとの懸念、そして方法論として館山市のために最良の方策として考えた、このように供述をしているようでございますけれども、これはあくまでも事実確認の範疇であります。私は、この2人の供述を信じてあげたい——あげたいけれども、一方で事実確認は警察の捜査でない。それぐらいしかできなかったと思う。できれば信じてあげたい一方で、また再度確認をしたいなと、このように思うんです。

また、この監査に虚偽の報告をしていた点について、虚偽公文書作成罪の

成立はないのかどうか。金融機関別預金残高総括表に収入役の押印はあったのか、あったとしたら有印公文書作成罪として、またなくとも無印公文書作成罪に当たる、このように考えられますけれども、この点についてはいかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 虚偽公文書作成罪に関してでございますが、金融機関別預金残高総括表でございますが、これは例月出納検査の附属資料として提出されるものでございます。それ自体に印が押されているものではございませんが、公式に出される文書でございますので、虚偽公文書作成罪に当たる可能性があるのではなからうかと、そのように考えております。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） 当たるのではないかということですね。当たるとなると、どのようになさるおつもりですか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 今後法律家とも相談しながら対応していかなければいけません、当たる場合——当たるという判断が出た場合は告発という手続に入る必要があろうかというふうには考えております。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） これ先ほど債務の発生でちょっと御答弁あったんですけれども、これは免責条例の犯罪——先ほど御答弁ありましたが、確認しますけれども、免責条例のいわゆる除外になる犯罪になりませんか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 先ほど来お話ししておりますように、私どもこの損害の回復ということに最重点を置いておりまして、何とか免除条例の適用除外にならないかということで検討あるいは法律家との協議を進めてまいりましたが、残念ながら免除法5条に規定いたします直接の犯罪というところには該当させることは無理だという結論でございます。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） 私は、この株の——山田さんが株の購入をしたこ

との因果関係があって、この公文書作成罪が出てきたんです。ですから、この株の購入をしなければ、いわゆるこの虚偽公文書作成罪というのはあり得なかった。その因果関係になると考えるんですけれども、その関連性でなりませんか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ここで犯罪による場合については免除するという規定の犯罪でございますが、犯罪が成立するかどうかということは株の購入、その事実について犯罪が成立するかどうかということが問題になるわけでございます。株を買った後、その株の所在そのものを隠ぺいするために行われました文書の虚偽報告というようなことは、直接的には免除条例あるいは免除法に規定いたします事由には該当しないというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） 私は、このように故意に監査に虚偽の報告をしていた、そしてひた隠しにしていた罪は虚偽公文書作成罪に当たるんじゃないか、このように考えます。

それで、ちょっとお伺いします。報告書によりますと、名義書きかえ未了による配当未受領額が損害額に含めていないように見当たります。平成4年9月に保管振りかえ制度に切りかえるまでの昭和63年3月から平成3年までの307万5,000円、そしてその前の昭和62年夏期の配当金27万5,000円の合計335万円が損害額の総額の内訳に入っていないんですね、目をちょっと皿にして見てみたんですけれども。この配当金がどこ行っちゃったんでしょうか、御説明をお願いします。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 損害額の算定の際に受け取らなかった配当金はどこに含まれているのかという御質問でございますけれども、受け取りませんでした配当金につきましては遅延利息1億5,000万ほどでございますけれども、この遅延利息の中に含まれて損害額として計算されているものでございます。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） わかりました。

これはちょっと大事なんですけれども、監査報告によりますと犯罪が成立するまではいかない、このように言っております。お尋ねいたしますけれども、検討したのは何罪でありますか、また犯罪の成立はその犯罪の要件が充足するかがポイントと思うわけです。その要件のどの部分が欠けているのか、いわゆる背任罪なのか、横領罪なのか——に当たると思うんですけれども、それを説明願えますか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 免除条例の適用に当たりまして、どんな犯罪を検討したかということでございますけれども、先ほど申し上げましたとおり、何とか免除条例の適用を逃れようという、いろいろな願いがございましたものですので、ただいまお話がありました背任罪、それから業務上横領罪、それから虚偽公文書作成罪、やはり同様に検討したところでございます。

◎14番（永井龍平君） 終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で14番議員永井龍平さんの質問を終わります。

暫時休憩をいたします。

午後3時33分 休憩

午後3時50分 再開

◎議長（山中金治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

ちょっと傍聴人に申し上げますが、傍聴人は議事について可否を表明したり、会議の妨害になる行為は禁止されておりますので、静粛にお聞きを願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 既に通告をいたしましたNTT株購入不正の監査委員報告について、監査委員及び市長それぞれに所見をお尋ねいたします。

さきに、元収入役らによるNTT株購入不正について、市長は損害の回復を求めて監査請求をいたしましたが、この監査請求に対する監査委員の監査

報告では、山田、渡辺、2人の元収入役に約4億円の賠償責任があることを認めましたが、いずれも昭和天皇死去による賠償責任の免除にかかわる条例によって、それらの賠償責任は消滅したとの報告で、結局損害の回復はできないというものでありました。そもそも天皇の死を理由に公務員の賠償責任を免除するなどというのは、天皇が主権者で公務員は国民のためではなく、天皇のためにその公務を行っていたという明治憲法時代の発想そのものであります。国民こそ主人公とする主権在民の日本国憲法の理念に反する違憲の条例で、このような条例を容認することはできません。

この条例制定当時は、昭和天皇の死去でその死を悼むのは当然と批判的意見が許されない全く異常な風潮がつくられていましたが、この条例を自治省の指導があるからと無批判に提案した市当局には重大な責任があります。また、この提案を受けて非常によかったと質疑の中で発言し、この条例の提案を大歓迎した辻田議員を初め賛成多数で成立された議会の責任は大きいものがあります。辻田議員は、今ごろ適用されるとは思わなかった、事務上の手続のみの死に条例だと思って引き下がったなどと、新聞紙上では自分が大賛成していた事実を隠して質問したなどと今になって言いわけを言っていますが、見苦しい限りであります。この条例に大賛成したみずからの責任こそ、まず明らかにするべきであります。

さて、この条例を子細に検討してみますと、公務員等の懲戒免除等に関する法律第5条ただし書きで、本人の犯罪行為による賠償の責任に基づく本人の債務については、この限りではないとして免責が除外されています。犯罪行為による場合は、責任を免れることができないことになっているわけであり、刑法の背任は、「他人のためにその事務を処理する者が自己もしくは第三者の利益を図り、または本人に損害を加える目的で、その任務に背く行為をし、本人に財産上の損害を加えたとき」とあります。収入役がその任務に背いて株を購入し、市に財産上の損害を加えたのでありますから、その目的によって刑法の背任に該当することになります。山田元収入役も、渡辺元収入役も市のために購入したことだと言っていますが、いずれも言い逃れで信用できません。N T T株の購入は、刑法の背任に該当し、犯罪であると

思うのでありますが、監査報告では元収入役2人のNTT株購入は犯罪に当たるとまでは言えないとしていますが、なぜ背任に該当しないというのでしょうか。

山田元収入役の供述を中心にしてお尋ねをいたします。山田元収入役の供述は信用できないとの立場を、監査報告は半澤市長への報告の問題や、渡辺元収入役への株引き継ぎ問題の二度にわたってとっています。この監査報告から受ける印象は、山田元収入役はうそで自己保身を図っているのではないかということです。背任の構成要件の中で、重要な要素は株購入の目的が何であったのかということですが、山田元収入役は「そんなにもうかるなら市で購入しようと思った」とか、「市民に利益を上げさせようと思った」とか供述していますが、それ自体果たして信用できるものでありましょうか。私は、この供述の全体から判断して到底信用できませんし、これを読んだ多くの市民も同じ思いだと思います。

株購入は昭和62年11月であります。そのときは任期まであと4か月しかないという山田元収入役が平穩無事を望むのは普通のことではありますが、冒険を冒してまで株購入という危険なことをする必要がどこにあったのでありましょうか、理解しがたいことでもあります。また、市民に利益を上げさせようと考えたというのが本当だというのなら、そういう人が退任時に当時なら自己資金でも損失補てんができたはずの1,650万円相当の含み損にすぎなかったNTT株を何の措置もとらずに、いわんや次の収入役に引き継ぎもしないで平気でいられるのでありましょうか。市民のためにということをする人にしては、余りにも無責任のきわみではないでしょうか。株購入は、市のためという山田元収入役の供述は、到底信用できないというのが当然ではないですか。信じろという方が無理があるというものであります。株購入の目的について、そんなにもうかるなら市で購入しようと思ったとの山田元収入役のこの供述の信用性についてどう思っているのか、お答えをいただきたいと思います。

次に、山田元収入役はそんなにもうかるならと言っていますが、当時の客観的な状況としてNTT株第2次放出時は、一時は300万円を超える値をつ



けていた株価が既に値下がりをしていたときで、そんなにもうかるという状況ではありませんでした。山田元収入役は、個人的に株取引もあったわけで、損することもあり得ることと認識していたものと思われるのでありますが、どうだったのでしょうか。

また、山田元収入役の株購入は、まずわざわざ地元ではない野村證券千葉支店に10株を購入し、その後に水戸証券60株、東洋証券40株と購入しています。3社に分散して購入しているが、なぜこんな買い方をしたのか、不自然な購入の仕方ではないかと思うのでありますが、その意図は何だったのでしょうか。監査報告では、この点は不明であります。供述を求めなかったのでしょうか、いかがでしょうか。

次に、渡辺元収入役の供述についてお尋ねをいたします。渡辺元収入役の供述には重大な矛盾点があり、山田元収入役同様、株購入が市のためであったという供述について信用できません。渡辺元収入役の供述では、収入役に就任した直後の4月20日過ぎ、資金運用表記載に疑問部分があったことから、山田元収入役がN T T株を購入していた事実を知ることになったが、そのとき既に2,000万円近い含み損があったとし、そしてその年の7月か8月に山田元収入役に対してN T T株を購入した事実を確認したというものであります。4月20日ごろにわかったが、山田元収入役に確認したのはそのときから3ないし4カ月後だというのでありますが、市役所というところは2,000万円程度の損失は直ちに手を打つべき問題ではなく、3カ月も4カ月も放置しておいて当たり前というところですか。こんな供述がどうして信用できますか。

さらに、そのとき山田元収入役からは申しわけない、責任は持たせない旨の謝罪があり、山田元収入役は相続問題を解決するなどして損失補てんする旨を申し出たとされます。山田元収入役が損失補てんをすと言っているのに、その2カ月後の10月に渡辺元収入役は損失補てんのためにみずからN T T株を購入し、株価の上昇に期待をかける必要があったのでありましょうか、全く理解できません。供述では、方法論として館山市のために最良の方策と考えたとのことではありますが、背任で訴追を逃れるための巧妙な言い逃れに

すぎず、信用できない、そう思うのであります。渡辺元収入役は、N T T株購入はさらに含み損を増大させるとの懸念を持っていたと供述しています。館山市に損失を与えることを承知の上で、それでも構わないと思って購入したことになると思うのであります。いかがでありますか。また、株価が上がれば損失を補てんし、だれにも傷がつかない旨を思ったと供述していますが、このだれにも傷がつかないという意味は、山田元収入役の損失補てんをし、山田元収入役を守るためであったという意味だと思ふのであります。いかがでありますか。

公務員等の懲戒免除に関する法律第5条ただし書きの免責除外、すなわち賠償責任を追及できることになる犯罪行為とは、有罪の判決があったものだけでなく、犯罪となるべく要件を具備すると地方公共団体において認定したものを含むと自治事務次官通知でなっておりますが、犯罪行為の認定を地方公共団体が行うということは、それ自体重大な問題を持つものだと思うのであります。この認定とは具体的にどのようなことを言うのでありましょうか。この地方公共団体における認定とは、市議会で犯罪と認定する議決をすれば、この法律による免責除外の犯罪行為になるということか、あるいは市長において告発をすれば、それをもって認定をしたということになるのか、いかがお考えでありますか。

私は、既に議会運営委員会において地方自治法 100条に基づく調査委員会の設置を提案したところであります。百条委員会は、監査委員の権限よりもはるかに強い権限があり、議会としては最も強力な調査権を行使することができるものであります。百条委員会における証人は、正当な理由なく出頭を拒否したり、山田元収入役の監査委員会における供述のようにうそと思われることがあれば、議会として偽証罪として告発することができます。強力な調査権限を持ったものであります。いわば、議会の伝家の宝刀と呼ばれるものです。監査委員の監査よりも強力な権限を行使し、新たな事実や証言が出てくることは十分考えられることで、犯罪行為の認定などで議会の調査等で新たな事実が発覚した場合は、賠償責任に関する監査をやり直す必要があるのではないかと思うのですが、いかがお考えになりますか。

次に、N T T株の購入とその保有につき、監査委員に虚偽の報告をしていた3人の元収入役の行為は、刑法の虚偽公文書作成及び背任に当たると思うのでありますが、いかがお考えでありますか。公務員がその職務に関し虚偽の公文書を作成した場合は、単なる文書偽造とは違って厳しく罰せられることとなります。印章や署名のある公文書では、10年以下の懲役で背任罪よりもはるかに厳しく処罰されます。株の購入、保有を隠すために虚偽公文書が作成されたとすれば、それ自体が任務に反することであって、自己保身のためであれば当然背任であります。いかがお考えになりますか。

次に、刑事訴訟法 239条は、「官吏又は公吏は、その職務を行うことにより、犯罪があると思料するときは、告発をしなければならない」と義務づけていますが、この株購入不正について犯罪があると思えば告発すべき責任が市長及び監査委員にはあると思うのでありますが、いかがお考えですか。また、この事件の被害者は市そのものでありまして、市長自身が告訴権者に当たるかと思うのであります。いかがお考えになりますか。

御答弁によりまして、再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、監査報告について、元収入役2人のN T T株購入は犯罪に当たるとまでは言えないというのはなぜかとの御質問でございましたが、N T T株の購入は自分や第三者の利益を図り、または館山市に損害を加える目的でなされたものではございませんので、背任罪に該当しないと考えております。

次に、第1点目、山田元収入役の株購入と3社に分散して購入した理由につきましては、監査報告にありましたように、館山市の利益を図るため、従来から現先等の取引のあった会社から購入したものでございます。

第2点目の渡辺収入役の事情聴取の内容につきましては、報告書のとおり、館山市の利益を考えて購入したものでございます。

第3点目の犯罪についての地方公共団体の認定の御質問でございますが、

先ほどからお答えしていますとおり、株の購入は犯罪ではございません。

第4点目、監査のやり直しについての御質問でございますが、監査での事実確認は十分にされているものと考えております。

なお、新たな事実が発覚した場合には内容を検討し、法令に従い、適切な対応をしてみたいと考えております。

次に、大きな第2、N T T株の購入とその保有につき、元収入役の行為と犯罪についての御質問でございますが、元収入役は監査委員に提出しました書類には虚偽のものがございましたので、刑法上の虚偽公文書作成罪に当たる可能性があるのではないかと考えています。また、背任に当たるのではないかと考えていますが、株価の上昇を信じ、市民の利益を考えてのことなので、背任罪には当たらないものと考えております。

大きな第3の職務に当たり犯罪があると思われるときの告発についての御質問でございますが、犯罪があると思われるときは法律に従い、しかるべき措置を講じる考えでおります。

以下、代表監査委員の答弁に移ります。

◎議長（山中金治郎君） 山田監査委員。

（監査委員山田教和君登壇）

◎監査委員（山田教和君） 大きな第1、監査報告について、元収入役2人のN T T株購入は犯罪に当たるとまでは言えないというのはなぜかとの御質問でございますが、山田及び渡辺元収入役のN T T株の購入は、両者の供述から館山市財政のためになされたものであることが認められ、自分や第三者の利益を図り、または館山市に損害を与える目的でなされたものではありませんので、背任罪に該当しないと考えております。

次に、第1点目、山田元収入役のN T T株購入の目的につきましては、市のためになるなどその供述には一貫性があり、「そんなにもうかるなら市で購入しようと思った」との山田元収入役の供述は信憑性があるものと判断しております。また、N T T株につきましては、欠損が出るという認識はなかったとのことでございます。

さらに、N T T株を3社から分散して購入している意図は、従来から3社

と現先等の取引があったこと、購入希望株数が多く、3社からでなければ希望株数を購入することができなかったからであると聞いております。

次に、第2点目、渡辺元収入役は株価の上昇を信じ、含み損の回復のため、館山市のために最良の方策と考え、N T T株を購入したと判断しております。また、だれにも傷がつかないとの意味は、株価が上昇すれば損失を補てんでき、館山市民のためになるとの趣旨であると判断しております。

次に、第4点目、議会の調査等で新たな事実が発覚した場合についての御質問でございますが、議会から要請がございましたら、新たな監査として実施することになります。

次に、大きな第2、N T T株の購入とその保有につき、3人の元収入役の行為と犯罪についての御質問でございますが、損害賠償責任とは別の問題としてお答えいたします。元収入役から提出された金融機関別預金残高総括表には虚偽のものがございましたので、刑法上の虚偽公文書作成罪に当たる可能性があるのではないかと考えております。また、虚偽の報告は株価の上昇を信じ、市民の利益を考えてのことであり、背任罪には当たらないと考えております。

次に、大きな第3、職務に当たり、犯罪があると思われるときの告発についての御質問でございますが、法律に従い、対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 背任罪の問題というのは、要するに目的が何であったか、そこが非常に重要なポイントなわけです。その目的ということですから、人の心の中の話です、供述なんです。その供述が信用できるものなのか、うそを言っているのか、ここがポイントになるかと思います。

市は、山田収入役について株価の上昇を信じていたとか、市民のためであったという本人の供述をそのまま信じているけれども、信憑性がある、こういう御答弁ですけれども、私はとても信じられない。そういう市民のためにとかいう考えの人が、どうして1,650万円という退任時の差損にしかすぎな

いものをほうり投げて、報告もしないで逃げちゃったんだ、どういうふうに説明しますか、それ。自分の悪事の発覚を恐れたからです。そのときに見つかれば背任罪で告訴される、こういう危険があると感じたからじゃないんですか、いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 確かに監査報告、事実関係でございますが、山田元収入役退任期にそれが表に出ておりましたら、1,650万円という額の差損で済んだところではございます。

ただ、その時点におきまして、山田元収入役はその後の株価の上昇というものを信じていて、それでその時点で明らかにしないことによりまして、株価が上昇し、差損がなくなるというような考え方から公にできなかったものというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 後は野となれ山となれということじゃないですか。自分が退任するんですよ、3月で。後は上がるか下がるかわからないと、そんな無責任な人じゃないですか、今のお話でしたら。上がったら差損がうまくいっちゃうな、下がったら、これは大変かもしれないな、でもいいや、黙って逃げちゃえということでしょう。おかしいじゃないですか。そんな人の言っていることを私はとても信じる気にならない。そのときに発覚したら、むしろ背任罪として告訴される、そういう危険を感じたからこそ隠したんじゃないですか。むしろそういうふうに考える方が世間の見方です。そういうふうに見ない役所はおかしいと思うんです。どうなんですか、私には信じられないことなんです。

じゃ、具体的に話ししますけれども、途中で5万円上がりました、株が。値上がりしたとあります。5万円上がったんです。あと4カ月の任期の山田収入役です。255万円の株が5万円上がった、これが運用益としたら、運用による収益だとしたら5.9%になるんですよ、計算してみてください。当時の現先の平均利率4%台でしょう、いかがですか。もうやばいんです。すぐに現金化しないと、現先の運用としては異常な高金利になっちゃうんですよ、

違いますか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 確かにおっしゃいますように、結果論でございますが、一番高いところで売却いたしましたとすると、今お話しのような収益が上げられたということは言えるかと存じますが、やはりこれは株を購入したときの心理等、推しはかるべきもございませんが、まだ上がるのではないかという — もっと市の収益が上げられるのではないかというような考え方から、そのときにそれを処分していなかったのではないかと推測いたします。これはあくまでも憶測でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 言っている意味がわかっていないんですね、それ以上上がったらばれちゃうよという話をしているんですよ。5万以上で10万円上がってみなさいよ。普通の平均の利回り4%だと言っているときに、5.9%の高利回りになっちゃうんですよ。これが10万円上がったときにはもっと値上がりを望んだら、平均利回りの2倍、3倍という高利回りになって返っちゃうんですよ。どうやってこれ説明するんですか。そんな高利回りの場所が — 高利回りで金を回してくれるところはないんですよ。どうやって説明するのか、ばれちゃうじゃないですか、株でやりましたってばれるんです。だから、この取引は余りもうけちゃうとばれるというジレンマがあるんですよ、株というのは。違いますか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） これも当時の状況を推測するしかございませんけれども、仮に利回りが7%あるいは8%という高い利回りで何千万円という収益が上がりましたときに、あるいは退任に当たりまして、実は株を購入して運用したと、不適当だと思ったけれども、これだけの収益を上げたというような説明を、あるいはするつもりであったのかと、これもやはり推測でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 結局これはもう値上がりを待ったということは、

私が思うのは、もう運用利益としてはもとに戻せないんですよ、目立ち過ぎる、ばれるんです。後からずっとばれないように、ばれないようにって公文書偽造だ何だと一生懸命やっているんです。ばれないための工作を、そうでしょう。そう考えれば、この株はもっと値上がりを考えたというのは、市に返すつもりではなかったと考えるのが当たり前じゃないですか。この収益はどこかに入れる予定だったんですよ、そう考えなきゃつじつまが合わないじゃないですか、いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 当時の元山田収入役の行動については、その発端になります株の購入が本人申しますように市に少しでも収益をとということで始まったという監査報告がございまして、それを了解するものでございですが、過大な収益が上がった場合どうするのか、それについては先ほど来推測でお話をしておりますが、正直申し上げまして、お答えする内容を承知しておりますので。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） わかりました。

じゃ、ちょっと事実関係聞きますけれども、野村證券の千葉支店との取引はいつから始まったのか、現在もあるのかどうか、いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 収入役。

◎収入役（永野 修君） 今ここでいつから始まったという資料は持ち合わせてございませんけれども、今現在野村證券との取引はございません。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 山田元収入役は個人として株取引があったというけれども、それはどこの証券会社ですか。

◎議長（山中金治郎君） 山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君） 調査権の範囲でお聞きすることができませんでしたということでございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 監査委員の方に私は同情します。調査権限がない



というのは本当なんです、これはそのとおりなんです。だから、議会の責任が重要なんです。議会にちゃんとした調査委員会をつくって、議会が調査をしなきゃだめなんです。

そこで、山田収入役の人間性といいますか、こういうことに立ち入るのは嫌なんですけれども、収入役として年間 1,000万ぐらいの給料もらっていたでしょう。4年間で 4,000万、そして退任時には退職金が 600万ですか、700万ですか。で、退任時に 1,650万円というこの損失補てんをしなかったというのは、とてもその人の財力や資金力から見た場合にはできなかった金額ではないというふうに私は思うんですけれども、あえてそれをしなかったのかなと思うんですが、とてもそんな収入はなかったという — その収入の当時の状況についてどう認識されますか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 山田元収入役、市の収入役退任後に社会福祉協議会の事務局長として就任しているわけでございます。したがって、先ほどそのときの収入状況はどうかという個人の家計の問題につきましても十分承知してはおりませんが、先ほどのお話で後は野となれということで市から離れていったわけではございません、市の機関の職員として間接的ではございますけれども、市からの給料である社会福祉協議会からの給料を受け取っていたという状況はございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 本当に誠意ある人ならば、自分がやった後始末は自分でちゃんとしりぬぐうんです。それが 1,650万円ですよ、当時は。とてもできなかったという金額じゃないはずなんです。そのことを言っているんです — そんなこと聞いていないですから。

それから、今社会福祉協議会、対象区分を公務員はいいんです。給料もらいながら共済年金もらえるでしょう。一般の厚生年金の人は減額になるんです。ちゃんともらえるじゃないですか、年間 600万か 700万ぐらいになったんじゃないですか、この8年間。

そこで、この中の供述で途中株価が 150万円になるまで待ってくれと山田

収入役言っています。そうしたら、損失補てんができると言っています。そのときまで待ってくれと。60万、70万となっていましたから、255万円を買った株、60万、70万までになりました。150万まで待ってくれ、150万になったら損失補てんして何とか帳じり合わせると必死に頼んでいます。150万ということで、そうすると1株総額で言うとも1億1,000万ですよ、損失補てんすると約束したのは。違いますか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 監査報告書にございますように、御本人の相続問題等解決いたしました際には、その額の補てんが可能だということで150万円という数字が出てきたんではなかろうかと思っております。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 110株でしょう — 110株で255万から150万引けば105万です。105万の110株、計算してみなさい、1億1,000万です。それだけ損失補てんすると言っています。これは言い逃れだったのか、何か根拠があったのか。

だから、今回4,000万ですか、5,000万ですか、評価が。任意弁済だという話があった。大変なことだと、市長さんもそういう認識を持っていた。でも、私これ読んで、ああ、まだあるんだな、まだ5,000万ぐらい資産持っているのかな、率直に思いました。このときの150万ならば、損失補てんをしますよと言ったときのその根拠が何か、どういうものが資産として考えられたりしたのか、その根拠なんかは承知していますか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいまの御質問でございますけれども、監査報告書、監査委員の調査の結果に基づいた事柄を承知しているということでございますけれども、先ほどお話しいたしましたように、もちろん御本人の資産状況について明確な把握をされていなかったんではなかろうかと思いますが、相続問題の解決によりまして相当額が入ってくると。それで、弁済できるということだったというふうに承知しております。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） よくわからないということですね。当時彼が言い逃れのためにそういうふうに言ったのかもしれないと。だから、実際どうなのかというのはわからない。しかし、1億円、1億1,000万相当の損失補てんはその時点でありますよということを言った事実は残っているということを確認しておきたいんです。

私、この問題で監査委員の——当時の監査委員がだれだったかと調べました。そうすると、議会からは松下先生が監査委員で、ちょうど病に伏せていた時期です。収入役を毎月毎月の出納検査をチェックする役、これは監査委員です。その監査委員が2人のうち1人が病に伏せる、こういうやっぱり間隙を縫ってといいますか、そういう時期にこの事件が起きたということで、思いたくはないですけども、随分ひどいときにひどいことするものだということを感じております。

渡辺収入役の関係ですが、山田元収入役が損失補てんを約束しているのに、渡辺元収入役がなぜ株購入をしたのか、全くミステリーなんです、これ。理解できないんです。余りにも矛盾がはっきりしているもんですから。それで、その監査報告を事実を確認したという市長も市長ですけども、これはおかしいんじゃないんですか。私は、渡辺元収入役はまだ本当のことを言っていない、そういう感じが大変いたします。

また、川上元収入役は、金を返してくれと、損失補てんをしてくれということを山田元収入役には再三にわたって述べているにもかかわらず、渡辺収入役に対してはこの損失補てんをしてくれという申し出をしたというふうに監査報告に書いていないんです。また、渡辺収入役が損失補てんをするから様子を見てくれとは言っているんだけど、損失補てんをするからということは山田収入役しか言っていないんです。本当に何かこれミステリーだなと。ミステリーの人が渡辺収入役です。どういうふうに——渡辺元収入役の株購入の目的は市のためだったというふうに言うけれども、山田元収入役の損失補てんをすることが目的だったんだとすれば、これは立派な背任ですよ、いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 先ほどから総務部長答弁しておりますけれども、ひとつ午前中の本橋議員のときにも申し上げたんですが、どうしてもこの答弁が2人の弁護しているとられる、それを一番恐れているわけです。決してそういうことでございませぬので、一番懸念していたわけですが、今おっしゃったようなことを弁護士に対し何としても損害回復したいんだと、弁償させたいんだということで、何かこういったことではどうかということでやった結果が、法的にはこれはやむを得ないと。ですから、今総務部長お伺いしているのは、法的な解釈でもってやむを得ないということになったんだということでございまして、今の山田収入役の損失を補てんする、そういうお考えもあるかもわかりませんが、市の損失を補てんするというようなことでの理解をしているわけでございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 監査委員の監査は、損害賠償責任をするための監査ですから、それ以上は本当は求められていないわけです。それが犯罪であるかないか、こんなことを監査委員が監査でできるわけないでしょう、もともと。もともとできない話を言っているんですよ、そこまで言ってしまうと。本当にどういうつもりでこの収入役たちが株を買ったのか、この目的が何なのか、簡単に市のためだなんて言ってほしくないんです。我々は全然そういうふうには考えられない。この監査報告書読んでも矛盾だらけだ、そう思わざるを得ないんです。この監査報告書は、館山じゅうの全世帯にお配りになるわけでしょう。市民の間から出ますよ、この監査報告の内容は大変矛盾に満ちている。当たり前じゃないですか、私が今指摘したって十分な答できないんでしょう。

この渡辺収入役は、4月の20日の時点で含み損があることがわかった、株の。ところが、渡辺収入役が山田収入役を呼び出して確認したのは7月か8月だった。3カ月も4カ月もほうっておいたというのは、絶対理解できません。本当なのか。常識として、公務員の常識ではそんなこと考えられないじゃないですか。私は市役所、そんなにずさんだとは思いません。その辺についてどう思いますか。

◎議長（山中金治郎君） 助役。

◎助役（小幡清之君） それは何度も市長からも申しておりますように、公務員倫理の欠如の結果がそういうことである、非常に残念なことですが、それは事実であるということで考えております。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 公務員倫理の欠如をもう超えちゃっているんですよ、私なんかには言わせれば。この昭和63年の3月から4月にかけてのこの間の事件、山田収入役は1,650万円相当の損失だったものを引き継ぎもしないで逃げちゃった。後は野となれ山となれと言ったと。渡辺収入役は、自分の努力で引き継ぎは受けなかったけれども、4月20日にわかったと。けれども、何とかなんべよということで7月、8月までほうっておいたんです。全くこれはもう犯罪そのものですよ、私に言わせれば。こういうことをやっておいて、市のためだとか、そういうことを言うその道理というか、そう言えた義理かなと思いますよ、どう思いますか。本当に今悔しい思いをしているのは、むしろ市長や助役かもしれません。ああ、私も悔しいですよ、こんなばかなこと言われてたまるかと、いかが思いますか。

◎議長（山中金治郎君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） おっしゃるとおり、実に悔しく断腸の思いでございます、ですから何としても賠償命令を出そうということで5月、それが知り得た時点で法的な措置に訴えたわけでございます。

それで、免除条例が制定されていたということになってこういうことになり、あれがなければ当然賠償命令が出ていたわけでございますけれども、あの条例が生きているということで、行政は法律によって運営行政を行っているわけでございます。法的にそういうことであれば、これはやむを得ないと、こういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） やむを得ないというのが、結局は犯罪の立件が無理だと、こういう前提に立っているからですよ。けれども、私は率直に言って、これは犯罪という場合は99%黒くても、1%白いとなかなか難しい

というのはあるんです。それはそうですよ、被疑者にしても利益はなければいけないということになりますから。しかし、この状況をずっと見れば、2人とも限りなく黒いと思います。そういう認識持っていますか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 限りなく黒い、つまり犯罪が根底にあったということでございますけれども、監査報告にございますように、犯罪があったとまでは言えないということでございます。したがって、私どもの方といたしましても、犯罪があったということを前提にしての措置というものはできないわけでございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） すべて犯罪であると断定する立場にないんです、我々は。犯罪であるということを断定するのは、これは起訴する人ですよ、検察官です。我々が告発したって、それは犯罪じゃないと言え、検察官は法律にのっとって犯罪にならないと言え起訴しないんです。100%犯罪だという認定がなければ告発できないというものじゃないんですね、告発というのは。犯罪があると思料すればいい、極めて犯罪のにおいが強い、その辺の認識があるかどうかということを聞いているんです。

私は、極めてもうにおいぶんぶんだ。実際我々は、一般の人間は本人に強制的に取り調べをしたりすることできないんですから、その人たちの心の中をどうだこうだということはできないんです。それは、捜査機関のやる仕事なんです。その捜査ができるかできないかというのは裁判所が決めるんですよ、違いますか。そういうことでしょう。告発というのは、捜査の端緒を示すことにすぎませんから、これは告発本当に考えてください。極めて黒に近いんです。私は悔しいです。それがなければ、市長さん、あなた、市民がどんなにそこで悔しい思いをしていると言ったって、あなたに疑惑が向けられますよ、いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 先ほど来から監査の結果とか、それから元収入役は何を考えてどうやったのかと、それ出ていますけれども、今回の監査の結果、

監査の方々はきちっと私の請求を受けまして監査をして、その結果を今議員はいろんな問題があるとおっしゃっています。ありのままを市民に公表するということでございまして、次の市の広報に全部を載せます。そうして、市民の方からどうぞ御意見があったら出してくださいと、これが監査だと。監査の結果精いっぱいやって、こういう実態だと事実をはっきり市民の前に出すというのが第一条件なんです。それについていろんな御意見がある、これは当然でございまして。また、おっしゃるとおり、こういう意見が出たのは、これはおかしいじゃないかということもおありでしょう。それはそれで結構でございすけれども、監査、本当に御苦勞でした。この結果を市民の前にきちっと実態を公表いたします。

それからもう一つ、犯罪になるかならぬかと、こういう問題でございすが、監査の方々、また私たちの方も法律専門家にいろいろ相談しまして、その結果、あの免責条例がある限り、地方自治法に沿ってあの条例がある限り、これをもって行わなきゃだめだというような意見をいただいていますので、これから弁護士といろいろ相談し、専門家と相談して、また検討してまいりたいと、こう考えます。悔しいのは同じでございまして、私は、あるいは最高かもわかりません。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 1つは、虚偽公文書の作成の問題についてですけれども、虚偽公文書作成の場合には有印は10年、無印が3年ということで、この虚偽公文書作成10年の懲役というのは背任罪よりもはるかに重い罪です。大変厳しい内容です。

そこで、この有印公文書という場合に、我々は監査委員が行う毎月の例月の出納検査報告書もらいます。これは署名のあるものです。これには直接収入役の印はないと。しかし、監査委員の印があって出てくる文書ですから、しかし情報を知らない監査委員をして虚偽の報告によって虚偽の公文書を我々に交付させた、こういう点ではいわゆる間接正犯として、これは有印の重い刑罰に科せられるものだというふうに考えるんですが、どう考えていますか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） その点につきましては確かにおっしゃるとおりかも知れませんが、今後法律家と相談をいたしまして、対応について検討してまいりたいと考えております。

◎議長（山中金治郎君） 以上で20番議員神田守隆さんの質問を終わります。

次に、18番議員日下君敏さん。御登壇願います。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君） きょうは質問者7人という大変な過密な日程でございまして、私が最終でございますから、ひとついましばらく御辛抱をいただきたいと存ずるところであります。

私は、ただいま既に通告してございますので、この次の4点につきまして市長の意見をお聞きしたい。

まず第1点が、N T T株の購入問題は裁判によって決着をつけるのが公正だと、こういうことでございます。第2点が、岡田、出野尾、佐野地区の残土埋め立てについてお聞きいたします。第3点目が、館山市の観光施策について、改めて市長のビジョンを聞くものであります。第4点目が、西口土地区画整理事業と橋上駅舎問題についてお聞きいたします。

第1のN T Tの問題は、既に6月議会で質問したところでございますが、その際市長の方は監査委員会に監査請求を出してある、したがってその監査請求の報告待ちだと、こういうことでございます。先般その報告が出ましたものですから、6月に引き続き、いま一度この御意見をお聞きいたしたい、こういうことでございます。

質問に入ります前に、一言申し添えますが、私の属しております会派でも――緑風会と申しますが、会派の中で一応検討いたしまして、私のこれから申し述べますN T Tに関する問題は、一応会派の統一した見解であるというふうにお受け取りいただいて結構でございます。

ただ、川名正二議員につきましては、その職務上でございますから、その場から抜いていただいたと、こういうことでございます。

それでは、御質問に入りますが、種々概要はもうこれまで申し述べてきた



とおりであります。この収入役2人については、確かに損害賠償責任がある、その金額は4億円余。しかしながら、昭和天皇崩御に伴う、いわゆる免除条例でそれがすべて消滅している、こういうことでございます。私が問題にしたいのは、この監査報告を受けた市長の態度を問題にしたいんです。この監査報告は、私はこの4年間、4カ月にわたる御苦労大変なものだったと思うんです。ですから、これは努力の結晶として、その監査委員会の報告は報告として評価いたします。問題にいたしたいのは、その監査報告を受けた市長がこのような結論を出したというところが私は納得いかないであります。この監査報告を受け入れた、報告書どおりというのが私は間違いだと思うわけであります。

市長は、この9日の議会の初日の提案説明でも、やむを得ないものと判断せざるを得ないものと結論に至ったと、こう申しておりますが、市長は結論を急ぎ過ぎた。この選択肢は、全面的に受け入れるほかにもっとあったはずなんです。それがいつの間にか選択肢を1つにしてしまった。この市長の周辺には、小幡助役とか大変優秀な人材がおります。そういう方々が一生懸命やったにもかかわらず、こんな結論しか出なかったというのが間違いなんです。大体市長は常々市政は市民とともにあり、こう申しております。このことは、市民の気持ちを酌んで、気持ちを理解し、市民の納得いく政治をしよう、ということだと思ふんです。今回の結論はその裏腹です。

市長にお聞きしますが、個人的な見解は聞きました、結構です。私は、この選択をしたとき、この選択を持って、この結論を持って市民を納得させ得ると思いましたが、これで納得すると思いましたが、私は政治家として聞きたい。市政を担当する者として、このような結論を出してこれで市民が納得すると思ったかどうか、これをまず第1点としてお聞きしたいのであります。

この問題は8月30日にいろいろ申し述べておりますように、山田、渡辺両収入役が任意の弁済をなした。山田収入役は――元収入役は自宅及び土地、渡辺氏は現金、これは大変なことだと思います。これは自宅を売り払って他所へ移る、あるいは生活の蓄えを出す、大変なことだと思う。厳しくこれはこれで受けとめます。もう本当の率直なる反省だと思います。しかし、問題

は公金ですよ、取り扱った税金です。これは我々が、市民が一人一人、本  
当に額に汗して大変な御苦勞のもとで納めた税金を一役人が独自の独断で株  
を買って、結果大損出した。これでは、何としても情において確かに忍びな  
いです。これだけの自宅を出す、現金を出す、情において忍びないけれども、  
この問題はやはり心を鬼としてたすすべきものはたすんだ、そういう秋霜  
の気のもとにこの問題は措置していかなければならない、そう思うのであり  
ます。

じゃ、どうしたらいいかと申しますと、先ほど申しましたように、市長が  
この条例を丸々のんだからこれがおかしいんです。これによってペアになっ  
たというからおかしい。やはり、これは身内の犯罪とは言わない、身内の行  
為を身内が解決し合うというからいかぬのです。やはりこの問題は第三者に  
公平な裁判 — その3人を訴えて、そして公平な裁判のもとで、そして結論  
を待ってやるべきもんだと、こう思います。一体裁判をいたす存念があるか  
どうか、お聞きいたしたいと思います。

2点目が、岡田、佐野、出野尾の埋め立て問題であります。この問題は、  
当議会で三上、神田両議員が幾度か質問いたしたものでございまして、私は  
一応専ら聞き役に回っておったんでございますが、この埋め立て反対派と申  
しますか、これは照葉樹林と水源を守る会という住民団体で代表が鈴木宇子  
さんという女性の方でございますが、たまたまこの鈴木さんの夫君と私が個  
人的に知人でありましたものですから、この守る会、再三にわたり面会を求  
められまして、いろいろお話を聞きました。しかし、事が大変煩雑で、実は  
私理解できなかったんであります。結局わかったことは、その守る会の主張  
と市の見解というのが全く違ふと。もう白と黒、180度違ふということだけ  
はわかった。ああ、そうかと、これはやっぱり市の見解をたす必要がある  
かなと、こういうふうに思ったわけであります。

一方で、いわゆる埋め立て業者の方から代表者に対して内容証明が郵送さ  
れておりまして、場合によっては法的措置をも辞さないというような内容に  
なっておるようでございまして、業者と住民パワー — 住民パワーと言うと  
失礼ですが — 住民パワーとは水と油なんですけれども、そうそう訴訟まで

起こしてとんがらがって極論に行くこともなかろう、こういうふうに思いましたものですから、それでは守る会の方々の主張を市に問いただしてみましよう。それで、どこかで妥協できるものがあるのか、あるいは市が守る会に言っていることじゃない、市はこう言っているよと、こういうことかもしらぬということで御質問をさせていただきます。

第1点が、佐野大砂地区、これは一等最初に埋め立てをしたところです。この大砂地区の森林開発行為——これが森林開発行為に当たると守る会は言っておりますが、したがって事前協議にも出ていない、開発行為なのに。なぜそうなのかと、そのとおりなのかどうか、事前協議なされていないのか、森林開発行為に当たるのかどうか、これが第1点。

第2点目は、その大砂地区の隣接地区がありまして、そこに平成4年、大変な大雨が降って土砂が流出いたしまして、田んぼが相当被害に遭ったと。そこで、館山市、それとゴルフ場、埋め立て業者、それと地主、この4者で防災工事を行ったと。その工事、大変大がかりな工事のようですが、工事が先行しているにもかかわらず、書類が一切県へ出ていない。果たしてそういうことでありましようかどうかどうですか、お聞きいたしたい。

第3点目が、これは三上、神田さん等々の質問と重複いたしますですけども、出野尾大久保地区、これは新しく許可をしたところなんです、この搬入道路を設置いたした。しかし、このことは開発行為に当たるんでございますけれども、まだ事前協議がなされていない、こういう主張をしておる。それが本当かどうか、この3点についてお聞きいたしたいと思います。

次、第3点目が観光施策でございます。館山市は、三方を海に囲まれまして気候温暖、自然環境に恵まれて昔から観光立市ということを標榜してまいりました。いわば、一枚看板、大きな看板を掲げてきたわけでありましてけれども、この観光というものの概念が大変広いものですから、何を取り上げてもすべて観光、簡単に言うと道路一本つくるのも観光施策の一環だけれども、もう非常に漠然としておりますんで、大変観光、観光行政というのをとらえにくいと思うんです。しかしながら、表に大きく観光立市を掲げている割には、どうも実になっていないんじゃないかな、こう思うわけがあります。

昨今は、いわゆる国民の生活が向上いたしまして、市民の多様化、レジャー意識の変化と、こういうことで今までの観光の気持ちでいると、もう全く置き去りにされてしまう、館山市もそういう厳しい環境の中にあろうかと思うんです。もう今や、海、自然があればそれだけで人が来るというわけではないわけです。館山市の観光客を過去5年間ならしてみても、165万から年間175万、ほぼ170万前後でずっと横ばいなわけです。ですから、この現状を打破しなければいかぬ。では、打破するにはどうすればいいか、官民一体となって知恵を出さなくちゃならぬでしょうけれども、さて現実の問題として一体どうするんだということを御議論する前に、ひとつ改めていま一度市長の観光に対するビジョンといいますか、そういうものを聞いてみたいと思うのであります。

第4点目が、西口土地区画整理事業と橋上駅舎でございます。この西口の区画整理事業もようやく具体的な姿、形があらわれてきておりまして、確かに現地では空地は区画がしっかりしておりますし、計画道路等々も形が出ている。赤いれんがと白い壁の南欧風の家々も結構建ってきております。結構長かった工事もようやく今山場にかかってきたかなと、切所に来たなと思うわけであります。あと一步と、こういうところでございますが、ごく簡単で結構でございますが、現状、大体どの程度のことになっておるのか、お聞きいたしたい。

この西口の問題と並行いたしまして、これは当然橋上駅舎問題が出てくるわけであります。この西口ができ上がって、そこに広場ができれば、もうすぐにでも乗降客の問題が当然起きてくるわけであります。聞くところによりますと、その駅前広場の計画についてはまだ計画がないというようなことを聞きますし、また一方おおよその橋上駅舎の予算約18億、これについての調達めどもまだ立っておらないというようなことを聞くわけでございますけれども、ひとつこの橋上駅舎の現況、現状はどうか、そういうことを含めてお聞きいたしたいと存ずるところでございます。

御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの日下議員の御質問にお答えいたします。

まず第1、NTT株購入にかかわります問題でございます。この問題が発覚しましたとき驚愕しました。こんなことがあって、こんなことが許されて、こんなことが公務員のしわざとして等々でございます。それで、内部調査の結果、そういうことがあると。ならば、公正な第三者機関としての調査をお願いするということで監査委員をお願いしたわけでございます。お願いした段階では、こういうことが発生し、こういう損害があった場合には、全額債務負担してもらう、これはもう公正な裁判にかけている、そういう腹思いで調査をお願いしたわけでございます。

ところが、その調査過程におきまして、これまた驚きましたのが、平成元年の2月に大赦令が施行され、これが昭和27年の公務員等の懲戒免除等に関する法律までさかのぼり、大赦令が今後あった場合には、この法律が施行される。そして、その施行は条例に従ってやらねばいかぬと。ところが、平成元年、昭和64年に当館山市議会において条例が可決され、公布された。そういう事実が判明して、これまた驚愕したわけであります。そして監査をお願いいたしました。監査の報告の中にございますように、昭和天皇の崩御に伴う職員の懲戒免除及び職員の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例がある。これがある限り、法律専門家の全国市長会の顧問弁護士いわく、この法律に従ってこの条例がある限り、既に債務は消滅したものとされると。訴訟を提起しても、まずだめだ、こういうような指導がございました。これまた驚いたわけでございます。これは私だけじゃなくて市民みんながそうだと思うんです。こんなことがあるんですか。こういう行為があるのが許されない。しかも、こういう結末があるのかと、これは私自身も、市民の皆さんもそうだと。市役所職員全部がそうございましょう。そういう気持ちでございます。

たくさんの市民の方々、代表してきょうは皆さん方から御意見をちょうだいしております。しかし、この問題解決にはこういう昭和27年のあの講和条約締結に伴うところの法律があり、そして大赦令がある、平成元年。そして、

それに基づいて、ここ館山市の条例が将来に向かってこれを1月7日以前の問題の賠償責任は免除すると明確にうたっている。こういう法律がある限り、これに従わなければならない。本当に残念きわまりないんですけれども、これはありのままを市民の方に御報告し、そして納得いただく、これは容易な問題じゃございませんけれども、それ以外に方法ないんじゃないか、こう思うわけでございます。今肅々と市で考え、市で進めています仕事は、こういう問題にかかわりなく肅々と進めて、しかしこの問題については繰り返しありのままの情報を市民の方々の中に流し、実情を話し、そして御理解をいただく努力をする、せざるを得ない、するしかないんじゃないかと。そして、市民との間の、市民とともにあるのが私の政治生命でございますから、政治信条でございますから、これを変えることはございません。市民との信頼回復に全力を注いでいくのはこれしかないと考えているところでございます。これは第1点目でございます。

第2点目、岡田、出野尾、佐野地区の残土埋め立てについての御質問でございますが、佐野大砂地区の埋め立てにつきましては、千葉県優良農地林地保全特別措置要綱に基づいての事前協議はされていないとのことで、現在千葉県において調査中であると伺っております。

なお、平成4年の土砂流出によります防災工事につきましては、関係地主3者と施工業者との間に協定が結ばれておりまして、この協定には館山市は含まれておりません。

また、出野尾大久保地区の埋立予定地の搬入道路につきましては、施工時には千葉県の優良農地林地保全特別措置要綱に基づいての事前協議がなされておりましたが、その後手続が完了していると千葉県より伺っております。

大きな第3、館山市の観光施策のビジョン並びに方策についての御質問でございますが、館山市基本構想に基づきまして首都圏に誇る南房総のこの恵まれた自然環境を生かし、海洋性リゾートタウンのまちづくりを推進し、通年型・滞在型のリゾート地の形成を目指しているところでございます。その中核施設として、ウェルネスリゾートパーク計画やビーチ利用促進モデル事

業等の集客施設の早期整備を図るとともに、魅力あるイベントの開催や受け入れ体制の強化等に努めているところでございます。また、現在館山自動車道などの広域幹線道路の整備による観光を含めた各種産業への影響調査と振興方策の策定を進めているところでございます。この中で、さらに新しい観光振興方策につきまして調査検討してまいりたいと考えているところでございます。

次に、第4点目、西口土地地区画整理事業と橋上駅舎の現状と将来像についての御質問でございますが、西口地区土地地区画整理事業につきましては建物等の移転が約86%の進捗状況でございます。本年度から交通広場及び都市計画道路渚線の工事に着手し、平成10年度の供用開始を目途に推進しているところでございます。

また、館山駅橋上駅舎建設事業につきましては、現在概略設計に基づく自治省協議を千葉県を通じて行っているところでございます。今後詳細設計を実施し、平成9年度には工事に着手する予定でありまして、平成10年度の完成に向けて推進してまいりたいと考えておりますし、またこれは御質問を外れますけれども、この西口地区土地地区画整理事業、橋上駅舎、公共下水道終末処理場施設あるいはビーチ利用促進モデル事業、あるいはウエルネス事業、インダストリアルパーク計画の工業団地計画等々は、粛々と予定どおり進めていく予定でございます。この機会に報告させていただきます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） 再質問をさせていただきますが、N T T問題については既に6名の方がいろいろな角度から聞いております。大体既に答弁はわかっておりますので、さらに総務部長も大分お疲れのようですから、そちらの答弁はごくごく簡潔にお願いします。あるいは、途中でとめる場面もあるかもしれませんが、そういうことでお願いします。

私が申し述べたいのは、この館山市が免除条例を適用したことは間違いだ、だからその適用を外して、そしてこの収入役、これ川上収入役には大変申しわけないんですが、監査委員会の報告の中では川上さんは全く責任はない、

こう申し述べておりますが、私の理論では川上さんはあるということであり  
ます。その3人を裁判に訴えて、そして裁判の判決をもって結論を出すべき  
だ。その判決の中でこの条例を適用するから、この3人は結局セーフだとい  
うのならそれはそれで仕方がない。少なくとも、館山市がこれを判断すべき  
ではない、こういう結論の中で御議論をさせていただきたいと思います。

先ほど来どなたかもおっしゃいましたが、私も全協でこの結論を聞いたと  
きに、全く啞然としたわけであります。あいた口がふさがらないというか、  
普通幽霊というのは夜に出来ますから、昼間幽霊に出会ったようにびっくりし  
たわけであります。どうも納得いかないから、うちに帰ってしようがないか  
ら一晩考えてみた、寝ながら。何でこれ納得いかないかなと思いましたが  
ば、この条例は片手落ちなんです。片手落ちの条例なんです。公務員に厚く  
我々民間は全くこれにはあずからない。例えば私がこの同種のことをやって  
も、これは免除条例も何もないから、そのまま自分でやらにゃいかぬです。  
現に、私の身近な者でも — 名前は挙げられませんが、NTT株を買って何  
千万の損失を出した人はいます。その人は自分で自分のしりをふいています。  
それを公務員であるがために、何ぼ損をさせてもこれは甘い、これは片手落  
ちな条例なわけです。だから、こういう免罪符のような、特例制のような、  
こういうものを全面的に適用した、これが間違いなんです、どうですか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） この免除条例の適用を外すということでござい  
ますけれども、これをやる方法といたしましては、まず市が元収入役に犯罪  
と認定する必要があるということでございます。しかしながら、市の立場と  
して、厳密に法律を解釈いたしましてやらなければいけない。念のために司  
法判断を……

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） わかった。要するに法律に従いますよと、こうい  
うことですね。

この適用については、いわゆる縮小解釈すべきなんです。要すれば、拡大  
解釈してはいかぬのですよ、こういう片手落ちの条例なんていうのは。公務



員に甘く民間に全く関係ない、こういう条例はなるべく狭く狭く厳しく厳しく適用していくべきだと私は思うんです。

先ほど辻田さんが出ましたから、辻田さんをここで持ち上げてやれば、この平成3年3月に確かに半澤さんとこの問題についての問答をしています。そのときの半澤さんの答弁言ってみましょうか。賠償責任に基づく債務の免除につきましては、該当するものはございません。だから、この免除、この条例で賠償責任をしようとするものはありませんと言っているのです。なのに、何であるんですか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） その当時、それが発覚していなかったということでございまして……

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） つまり、この条例はこのときに完結しているんです。だから、先ほど鈴木順子さんが聞いた、何で条例がこれに載っていないんだ、例規集に。もう完結しちゃったからおしまいなんです、これ。おしまいなものをわざわざ館山市は寝た子を覚まして、起きたくもない子供を起こしてあめしゃぶらしたんです。これはよくないんです。だから、この条例の適用については厳しく厳しく判断すべきだ、こういうふう思うんです。

この64年1月7日以前、これからさかのぼるという、確かにそうです。そのとき行為がわからなかった。わからなかったというより、当事者が隠していたんですよ、これ。違法行為を隠していたんです。その隠蔽するものをわざわざあなたがこれ適用できますよって、そんなことありますか。これもはっきりしていますね、監査委員会の報告の中にある山田さんかな、わかったらとんでもないことになるから隠した——わかったらとんでもないことになる。つまり、彼らはだからこそ名義も書きかえない、配当金も受け取らなかった。もっと言えば、この元収入役は法の利益を放棄しているんですよ、このときに。みずからこの法を受けたくないと言っているのです、法の法益を。にもかかわらず、館山市はそれを適用した。これはとんでもない、温情と言えば温情。しかし、これはちょっと履き違えていませんか、履き違えている

かどうか、お聞きしたい。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 条例の解釈上やむを得ないものと考えております。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） もう一度、今度はこういう問題である。要するにこの条例は、法律に基づいて条例ができた。昭和27年の法律です。それを今度昭和天皇の崩御に伴って自治省通達が出た。その自治省通達の中でも、事情により軽減でき得ると、こうしているんです。その法律はもう当然減免でき得るですよ、法律というのはそうです。自治省通達も、事情により軽減できる、つまりこの法律の趣旨はすべて丸々適用しなくてもいいですよと言っているんです。条例と法律とどっちが上、こんなものはもうわかっています。つまり、法律の趣旨は、あるいは自治省の通達の趣旨は減免もできますよ、軽減もできますよということなんです。何も条文どおり丸々すべてがちょっとひっかかるからやれとは言っていないと思うけれども、どうですか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 市条例によって、減免するという規定とされております。したがって……

◎18番（日下君敏君） 免除できるでしょう。

◎総務部長（鈴木完二君） 失礼しました。免除するという規定になっております。したがって、免除できるということではございません。必ず免除するということでございます。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） だから、法律の趣旨はそうではない、こういうことですね。

もう皆さんが刑事関係は聞きましたが、私は一切触れようと思いませんでしたが、先ほどの総務部長の御意見は、株購入は犯罪でない。その後起きた虚偽公文書作成罪、これでは告発できない、これではできるけれども、株そのものではできないというようなことを申し述べておりますが、これは次の

機会で、私は刑事については今回触れないつもりですので、この問題は留保しておきます。

それで、監査報告も我々もどうも今回の場合経済行為を主体に考え過ぎていると思うんです。株を損したからこうなんだ、こう言っていますが、私は違うと思う。例えばこれ逆に株が上がったらどうなりますか。抜け駆けの一番やりってありますが、軍律違反で出かけて行って首切っちゃう。そういうことで、これ株が上がっていれば彼らは殊勲者だと思うがな、法律違反の。違いますか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 不当に取得されたものでございますので、果たして殊勲者と扱われるかどうかはわかりません。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） 結局、だけれども、まさか山田さんにくれちゃうわけじゃないでしょう、これもし株が上がっていれば。館山市のふところに入れるんじゃないですか。私は、山田さんが自分のためにとは思いません。だから、やっぱり株が上がれば入れたんです。だから、こういう議論はすべきじゃないと思うんです。株を買ってもうかった、損したじゃないんです。その根本は先ほどから問題になっているように、収入役たるものの職責だと思うんです。職責上、彼はもう株なんていうのは買っちゃいかぬ、こういうわけだ。にもかかわらず買った、これが間違いなんです、これが。つまり、株を買って損したから彼は間違っただけじゃない。株買う行為がいかに。そういうことで、つまり最も確実有利な方法で保管すべき、それをしなかった、こういうことです。

そこで、私はこう思う。山田収入役が2億5,000万程度、これも自分の任期中における相当額、これを最も確実有利な方法で保管をなしたならば、どの程度のものが出たかというものの、金額。私は、この8年まで下まで来ません。山田はその期限まで、次渡辺元収入役、これも9,500万出した。これは、さらに知っていて黙っていたということがありますから、とりあえずは渡辺元収入役は9,500万を買ってから自分の任期いっぱい、この間に最も確実有

利な方法で保管しなかった、これに相当する額。

それで、先ほど申しましたが、川上さんには申しわけない。川上さんは監査委員会ではセーフだ、こうなっておりますが、私の理論でいけば、この方もアウトです。知っていて黙っていたということは大変なことです。これは公訴機関も時効をそのまま通したということもあります。ですから、川上さんにはお気の毒ですけれども、円満に退職いたしました、その退職金の応分の額、これを定めて、それを決めて裁判所に告発して、そしてこれは裁判の判決を待つべきだ、こう思うんですが、どうですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 先ほども申し上げましたとおり、条例によりまして免除されているということでございますので、これが犯罪に相当するという認定を市としていたしまして、告発する以外に方法はないわけでございますけれども、この点については法律家と十分協議をいたしました。市の立場として、念のために、あるいは条例の適用をせずに損害賠償の請求をすると、そのために司法判断を仰ぐということは適當ではないというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） この話を聞いていたときに、昔読んだイソップだか何かの童話を思い出したんです。暑いときに馬主——馬子が自分の馬に大きな荷物に乗せて、塩に乗せてこの炎天下、きょうのような暑い中歩いていた。どうも馬も馬子も汗だらけだ。これは困ったなと。馬も死んじゃうなと思って、そうだ、あそこに川があった。川へようやく着いた。満々と水がたまっているから、ザブンと馬子も馬も入った。きれいになって上がってきたら、背中に積んであった塩がなくなっちゃった、溶けちゃったわけです。ウオーと馬がこれは申しわけないと言ったかどうか、馬の言葉はわからない。馬語でしゃべったかどうかわかりませんが、いや、これは大変なことしちゃった。これはもうしょうがないなと、馬子が。じゃ申しわけない、たまたま俵が残ったから、この俵をひとつ乾かして、これでどうですかね、これで返そうじゃないですか。怒ったのは荷主です。荷主は怒ってどうしてくれるん

だ、これは。そうしたら、その馬子が言うには、いや、川が悪いと。川があるから塩が溶けちゃった。川がなければ塩溶けなかったんだ、この議論です。

これで言うと、馬子が市長です。収入役が馬、乗せている荷物が賠償金、荷主が市民です。この市民は納得できないですよ、川が悪いって。川が悪いで申しわけないで、これは済まないんです。これは的確なことをしなきゃいかぬ、どうしたらいいの。川には川守という方がいて一生懸命川を守っている。その人に判断してもらうのが一番いいじゃないですか。つまり、川守というのは裁判官です。この身内の行為を身内がこれ決めろというところが公正じゃないんです。だから、これはどうしても第三者に諮ってもらわなきゃいかぬのです。それを皆さんが身内でやっちゃおう、こういうことでよくない。だから、古人いわく、過ちをただすにはばかりことなかれ、いい言葉じゃないですか。悔いを残さないためにも、ひとつそのことを検討してください。

時間がありませんから、次に移ります。埋め立ての問題ですけれども、第1問の一等最初の佐野大砂地区、これについては開発申請、つまり残土条例を当てはめるから開発申請はしなくていいと、こういうことですか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 御質問の事前協議の有無ということでございますが、市長答弁にもございましたように、これは県のいわゆる森林法の関係でございまして、そちらの方の要綱に基づいての事前協議は必要だということでございます。それがなされておらなかった、こういうことございまして、現在県の方でその関係については調査をしていると、こういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） それで、この残土条例については水利権者の同意書をつけろと施行規則で言っているわけです。今回許可になったところは、水利権になりかわる協定書なるものが出ているわけです。この守る会は、水利権があると言っているんですが、市の方はこれないと、こういうことなんですか、その水利権が。

それと、この協定書との絡みというのはどういうことになっていますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 慣行水利権は存在するという考え方でございまして、本来であれば水利組合というものがそれぞれそういう水利権管理をしているわけですが、岡田区には水利組合ございまして、区が総括的に管理をしている。したがって、協定書の中に水利にかかわる項目が入っておりますので、水利権についての協議はされているという考え方でございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） 大分大がかりな防災工事をしたそうで、館山市はまだ入っていない、こういうことですね、館山市は入っていない。じゃ、民間だけで工事をした。この防災工事は、どうか、要するに工事をすればいいんですか、それともいろいろな書類のようなものが必要なんですかどうなんですか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 市の残土条例にかかわることで申し上げますと、当時はこれはいわゆる砂をとった跡地でございまして、大雨で砂が流されて、下流の農地を埋めまして農作物に被害を与えた。そういうことの中で、緊急に防災工事が必要ではないかというような、そういう下流の農業者の方、それから土地を持っておられる方、地権者3名でございまして、そういう方と業者との間に防災工事を実施しようということになされたということでございます。したがって、当時の担当課の判断といたしましては、いわゆる残土条例を適用することは適当ではないと、そういう判断であったと、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） この防災工事の内容というかはどの程度のものに耐えられるというようなことが書類が出ていないとわからないと思うんですが、そういうのは出ているわけですか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） そういういわゆる計画書や設計書というようなものは、市の方には提出はされてございません。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） ですから、これどうも行き違っているような感じが——市は市、県は県というような感じがするわけです。だから、これ守る会というのも大分意欲的というか、活動的というか、私も再三にわたってお話をお聞きしているんですけども、現在この守る会が8月14日付で市長あてに行政不服審査法に基づく不服申し立てというものをしています。県に対しても幾つかのもの出しているようですが、最終的なものは8月29日付で申し立てを出しておる、これは聞いていますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 館山市に対しまして、そういう申立書が出されているということは承知いたしております。

◎18番（日下君敏君） 県は。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 県の方に出されたということについては、私承知いたしておりません。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） だから、今まで御議論をさせていただいて、つまり市と県が連携していないような気がするんです。ばらばらで、市は市で——それはそうなんですけれども、例えば最初に聞いた問題で県が調査中だと、こういうことです。当然市の残土条例もかかってくるんだろうから、市と県、これは安房支庁になるのかどうか分かりませんが、それと打ち合わせてある程度のすり合わせというか、問題の。それする必要があるだろうと思うんですが、どうですか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 全く御指摘のとおりでございます。

先ほど御質問のありました大砂地区でございます。これにつきましては、御承知のように残土条例が平成元年の6月施行ということでございまして、今の段階では県と、そういえばこういう手続が必要だということを利用者の方にはお話をしておりますが、当時としてはそこまで意識が回っていなかった、こういうことでございます。また、御指摘のとおり、今後は県とのそういう疎通は大事だというふうに認識しております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） ぜひひとつ県と連携をしていただかないと、たしか守る会の方もあれなんだろうけれども、いつも同じ質問が出て困るんだろうと思うんです。この問題については解決したよ、これが解決しないよというような、どうも区分けも必要ではないかなと思ったものですから、そういう御答弁でひとつ県と協議をしていただきたいと思います。

観光問題をお聞きしたいんですが、この基本計画を確かに読まさせていただきました。こんなこと申しちゃ申しわけないんですが、観光について一章を費やしてまして、しかし抽象論的なものになっておりますと申して申しわけないんですが。予算も10年といいませんけれども、大変観光予算が硬直化しているというか、固定化されている。春は植栽、夏は海水浴場、それはそれで仕方がないんだろうと思うんですけれども、いずれにしても現状を打破しないと、この観光客もふえない。つまり、受け皿体制を大きくしなくちゃならない、こういうわけです。

この基本計画を読みますと、新たな観光資源の掘り起こしと活用を検討します、こう書いてある。こう見ましたらば、新たな観光資源がどうだこうだということが書いていない。簡単に言って――簡単でいいです、どんなものが新しい観光資源なのか、お聞きしたい。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 具体的に何がというようなところまではこれ今後詰めていくことになろうかと思いますが、地元が目線ではなくて、やはりおいでになる観光客の目線の中でどういうものが観光資源として集客、



そういうようなものを検討していったら、そういうものの発掘を心がけていきたい、こういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） 私は、この稲村城址なんていうのは新しい観光資源だと思うんです。現在請願も出ているし、調査するということになっていますが、これがもし請願者が言うとおりの大変な歴史の宝庫であるならば、これから調査すれば出るわけですが、今この城門公園のようなものが復元がはやっています。ですから、あそこを復元すれば大変な戦国時代の城址ができて、この稲村から今度城山行って、富山の富山行って、富浦の岡本城址行くと、こういう1つの里見のルートもできるわけです。ですから、こういうものこそ新しい観光資源だと思うわけです。時間がありませんから、答弁は求めませんが、こういう発想をしなくちゃいかぬわけです。それは、工業団地も大変だけれども、そうやって稲村城址というものがこれから復元すれば大変な観光資源になると思うわけでありまして。これは答弁は時間の関係ですから、問いません。

館山市の基本計画、各種イベントでございます。フラメンコ、これは結構当たっているようです。産業祭り、これが一番いいようですけれども、薪能。この中で観光祭り、城祭りとか予算的に逼迫しているということで、結局もっと市のバックアップが必要だなという声があるんですけれども、どうでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 今後そういう事業内容等を検討する中で、その辺についても検討していきたい、こういうふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） 市民団体というか、話を聞いてみると、どうも旅館関係の方々の不満が一番強い要望、市に対する観光施策で。そういうふうに思うのです。結局観光問題に対する不満が一番強いというふうに思う。それは先ほど申しましたように、観光というと大変幅広いんですけれども、そういういろいろな意見を持った、例えば不満を持っている人がいる。この不

満を持っている人をやっぱり吸収して、そういう意見を聞かなきゃいかぬと思うんです。ですから、市の方もそういう会議には不満を持ったというとおかしいけれども、新しい方々でもどんどん受け入れて、委員会というか、その会議へ参画させる、そういう方向性をとるべきだと思うんですけれども、簡単にそういう点についてはどう思いますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 今までも機会あるごとにそういう話の場というものは設けてきているわけですが、どういう場を設けることが一番適当かどうか、その辺についてはまだ今後いろいろ詰めさせていただきたいと、このように考えます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） 時間がございませんので、駅についてお聞きしたいんですが、もう建物があと16棟と、こういうことです。16棟で今回4棟分が済んだと。しかし、この計画は8年度が10棟、9年度が6棟と、こういう計画なんです、これなんかやっぱり役人で何も8年度で16棟やりますよ、こうやってやっておかないと役人さんというのはあれがないのかなと思うんですけれども、最後までもしこの建物が残ってきたと、こういうような場合、どういう方策をとるつもりですか。つまり、最後まで話し合いでいこうと、こういうことですか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 御理解いただけないという方が何名かいらっしゃいます。その方に対しても、今後粘り強く交渉していきたい、このように思っております。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） しかし、結局もうこれだんだん残ってくる人というのは、本当に強烈な反対者というか、あるいは強烈な意見の持ち主だと思うんです。だから、話し合って解決というのはいかがなものかと思うんですけれども、まだ時間的余裕があるようですから、解決への御努力をお願いい

たしたい。

ただ、この中で都市計画道路渚線というのはメインの太いやつだと思うんですが、これについては既に道路及び駅前広場の利用計画どおりの工事ができる状態になったと思うんです。ですから、やはりこの工事を先行させて、そしてそれができてしまえば、もう当然駅との絡みが出ますから、この工事をひとつ優先してやってもらうことになるだろうなと思うんですけれども、その辺の考えをお聞かせください。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） ただいまの御質問ございました渚線の関係でございますが、当然駅広場と、それと都市計画道路の渚線に関係いたします権利者の方々には、既に御理解をいただいているところでございまして、本年度から本格的な工事を予定しております。計画といたしましては、橋上駅舎建設、それから下水道工事、そういったものを含めました平成10年度の供用開始を目指して進めてまいりたいと、このように考えております。

以上でございます。

◎18番（日下君敏君） 終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で18番議員日下君敏さんの質問を終わります。

以上で通告による一般質問を終わります。

散 会 午後5時40分

◎議長（山中金治郎君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明12日は議案調査のため休会、次会は9月13日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際申し上げます。一般議案及び補正予算に対する質疑通告の締め切りは12日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問